

仙台 YMCA 山岳会

# 季報 やまびと

冬編

2021年11月～2022年5月



2022・4・09 会山行 鳥海山 鶴間池 太右工門沢カール

① 2021・11・20 姥ヶ岳

晴れ

大竹 鏡 田中 荻野 山村

今回は山寺の会山行につづき、ymca での 2 回目の山行だった。

シーズン初めのピーカンの山スキーに気持ちが上がっていたのに、私はシールを忘れる大失態をおかした。これでは光る月山を目前に車待機かと肩を落としたが、先輩方の装備や智慧を借りて行けるとこまで行くことに。

雪はリフト下から少しずつ出始め、去年よりずっと少ないらしい。リフト上からみんなはスキーを履き快適に歩き始め、私は田中さんからアイゼンをお借りし、シートラしてなぜかせっせとラッセルに励む。

登った後は姥の東の良さそうな斜面を 2 本滑った。私は山スキーを移動の手段としてのイメージが強いので、良い斜面があったら登り返して滑るという感覚がいまいちピンとこない。だが、真っ白な雪面に今シーズンはじめてのシュプールを描くのはとても気持ちが良かった。

大学卒業まで残り少ないが、今年度もたくさん山スキーをしたいと思わせてくれた山行だった。

山村記

② 2021・11・22 姥ヶ岳山行後の炉辺独話

大竹

先日 20 日に姥ヶ岳での初滑りを満喫し、いよいよ 2022 年へ向けてのスキーシーズンの幕開け。🎵

先シーズンは 6 月 5 日の鳥海山湯の台の山行でスキー山行はお終い。

板納めでした。

そのシーズンの初滑りは今回より一週間早い 11 月 14 日。 同じ月山姥ヶ岳。

以来、月山や蔵王をメインに毎週のように通い、楽しませてもらいました。

孫のような学生から脂の乗った中高年まで、たくさんの仲間達にお世話になり、年齢性別を問わず共に行動できる幸せを感じています。

ただ、このシーズンほど体力その他で「寄る年波」を感じたシーズンはありませんでした。

体力・バランス調整力・判断力・動体視力・・・。

変わらず旺盛なのは、忘却力。

有難いことに「元気ですね」「体力ありますね」とお褒めの言葉をいただくこともありますが、自分の身体は自分が一番わかるのであります。

当然、歳には勝てっこないけど、ちょっとでも退化を遅らせ長く遊び続けられるよう鍛えておかなくては！。

話は飛ぶのでありますが、

昨年、山形蔵王スキー場の中央高原まで自転車で上った際、横倉ゲレンデで出会った**トニー・ザイラーの顕彰碑**。

ザイラーと言えば、1956 冬季オリンピック コルチナダンベッツォ大会で初の三冠を勝ち取った偉大なるレジェンド。

映画「白銀は招くよ」でも主演し、当時国内にスキーの大ブームを起こした 僕にとっては 今でも憧れのスキーヤー。

ご当地 蔵王でもスキー映画で滑っています。



そのザイラーの碑に 彼の大事なものとして、**意思 (Intention)・体力(Strength)**そして**好奇心 (Curiosity)**の三つの言葉が、それぞれのモニュメントの石に刻まれていました。



三つとも大事だけど、特に目に留まったのは「**好奇心**」。

まさにそうなんだよね。

歳を重ねるにしたがって、少年のようなキラキラした眼で好きなもの(こと)を探し求める気持ちが失われていく。

どんなに歳をとろうと、心のどこかに“少年”を持っていたい。

と、カッコよく思う今日この頃であります。

後期高齢者となって2年目に入ってしまったけど、今シーズンも好奇心を持って、少年のように！…、とまではいなくても、中年のようにスキー登山を楽しめますように！

今シーズンも懲りずによろしくお願いします m( )m

記：大竹

③ 2021/11/27 姥ヶ岳

L 大竹 鏡

志津 p 8 ; 5 5 ー電線道終了林道 10:20ー姥沢 10:40ーリフト駅 11:00(休憩入れる)

ーリフト道途中で引き返し 11:40ー12:30 頃志津 p

前回の無雪秋景色から一変。

完全なる冬景色でした。

電線道も生雪&藪っぼいながら、先行トレースに助けられて登ることができました。



ただリフト道途上で湯殿側稜線向こうで目の高さ近くの雲が光り、雷の音。

「ダメだこりゃ！」

即下山決定。

滑って間もなく単独者が降りてきました。

なんと犬嶋君！

先週に続いての出会い。

我々が助けられたトレースは犬嶋君のものでした。

すごい一言！

しばらく談笑し共に下山。

冬風に晒され、久しぶりのラッセルも体験し、良い冬のトレーニングでありました。 記：大竹

#### ④ 山域：青葉（いわき）

メンバー：布施香織、（他2名）

形態：フリークライミング

概要：6:30 仙台発ー8:30 岩場駐車場ー9:00 青葉の岩場でボルトルートクライミングー1600 下山

感想：青葉に行ってきました。陽が差していて、ぽかぽかクライミングができました。

他が寒かったせいか山形、仙台がたくさん知り合い集結していたので、

楽しかったです。青葉の岩場は、ルート、ボルト感覚も短いのですが、

そのぶん、強傾斜で厳しかったです。新たな岩場に行くと今の自分のレベルや苦手なところがよくわかります。かぶり課題をがんばらないとと思って帰ってきました。

記 布施 香織

#### ⑤ 2021・12・15

石跳川右岸筋からブス沼方面へ

志津P 出発 8:30～P 着 11:15

久しぶりの深野師匠との山行だった。

76歳と79歳の雪山入山。

誰がどう考えたって・・・。

∴トラブルは禁物。

pには10台ほどの駐車。

姥へのメインストリートから離れ、計画通り皮松谷地へのルートに入ったが

期待していた(?)ラッセルとは程遠いクラスト雪。

ただ、藪は消え、上部の細かい沢も歩行に問題なく埋まっており問題は無い。

融解凍結を何度も繰り返したような固い南部センベイのような雪が表面を覆い、帰りの滑降期待は打ち砕かれる。

それでも深野さん「石跳川沿いを進むよりいいね」の、有難い言葉に気を取り直して進み皮松谷地へ。

晴れていれば雪に覆われた谷地が、湯殿山をバックに絵のような景色になるのに残念。

残念でも、広大なブナ森逍遙は実に気持ちがいい。

昼前から悪天との予報にカワクルミ沼は次回と、ブス沼を目指したが、予報通り雪混じりの風が強くなり、急登となる沼手前の斜面でシールを外す。

クラスト斜面の滑りに、ターンに苦勞。

何度か足を取られ転びながらも どうか怪我無く戻れたことに、トッショリ二人 安堵の山行でありました。

次回は、好天を狙って辿って湯殿山！ 記 大竹

⑥ 日付：12月26日（日）

山域：青葉（いわき）

メンバー：布施香織、（他1名）

形態：フリークライミング

概要：6:30 仙台発ー8:30 岩場駐車場ー9:00 青葉の岩場でボルトルートクライミングー1600 下山

感想：青葉は北風がさえぎられて日差しがあれば寒くないという

地元常連の言葉を信じ、雪が降る中、青葉に向かいました。常磐道のなみえからは、雪がなくなり青空が広がっていました。13 時頃までは快適に登れ、それ以降はやはり寒かったです。

私たち以外は、3 組のみ（広い岩場に 10 人いないぐらい）で、パートナーと

10 台のルートをそれぞれ 11 本登りました。青葉はいつも込んでいるので、こんなことは通常の日であれば絶対できないんです。（先週は 70 人ぐらい岩場にきていました）

村上さんとは、月に一度は、練習会と題して今後の山行のために

クライミングやその他のアクティビティをすると決めています。

今回も有意義な練習ができました。

記 布施香織

⑦ 日付：12 月 19 日（日）

山域：蔵王・ライザスキー場～刈田岳

メンバー：L.鏡慶一、後藤遼太、大竹牧夫

形態：山スキー

概要：6:30 仙台発=8:00 蔵王ライザ駐車場=9:25 ゲレンデトッパー 1 1 時頃 馬の背稜線（戻る）ー 1

1：2 6 御田の神避難小屋ー 1 1：3 6 ゲレンデトッパー 1 1：4 2 ゲレンデベースー 1 5 時頃までゲレンデ滑走ー帰仙

報告：山形側ライザスキー場は宮城側より早く十分な積雪。駐車場で聡子パーティに遭う。ツアーコースはポール標識あり。樹氷が出来始めていた。下部は風が弱かったが、夏山リフトあたりから風が強くなる。リフト上からポール沿いに登っていたら分岐を見落としそのまま馬の背を熊野方向に進んでしま

う。途中で気づき引き返した。リフトまで戻りシールを剥がして滑降。御田の神避難小屋を覗いてみた  
が、一階は既に入り口が半分以上埋まっており、二階の窓も凍っていて簡単に入れず諦める。ゲレンデ  
に午前中に戻り、午後はゲレンデで滑る。

## 記 鏡

### ⑧ 12月29、30日

形態：クライミング 山域：伊豆城ヶ崎 メンバー 布施直之 香織

香織と伊豆の城ヶ崎海岸にクライミングに行ってきました。

民宿泊で海拔10m以下の活動なので、もはや山行ではないかもしれません。

ファミリークラックエリアで、ビギナーズ7、ベビー8、シスター9、サム9、アンクル9、ブラザー10a  
にトライしました。

クラックのクライミングは、プロテクションを自分で取りながら登らないといけないので、難しいです。

私はベビーまでRPで、それ以上はトップロープでの練習でした。

香織はクラックに慣れていて、アンクルまでOS！昨年、クラックを鍛えただけあって、さすがでした。

毎日4～5パーティが来ていましたが、ルートを選べば登れるので、混んでいる感じはしません。

昼は半袖で登れるくらいで、やっぱり伊豆は暖かいです。仙台に戻ってくると、寒さが沁みました。

記 布施直之

### ⑨ 【正月会山行】

日程：12月30日（木）～1月5日（水）

山域：北海道ニセコ 形態：スキー登山 宿泊：マッサンヒュッテ

メンバー L 牧野、西田、後藤、田中（邦）

12/31：ニセコアンヌプリ・滑降訓練

01/01：チセヌプリ

01/02：羊蹄山：1400m付近まで



01/03：目国内岳方面

\*L 牧野報告

ニセコ滞在中は天候には恵まれませんでした。北海道の厳冬期らしい山行もまずまずできました。また、西田カーの出動のおかげで、色々な行動も柔軟にでき感謝です。

○12/31 アンヌプリスキー場

【ルート概要】

西田、田中、後藤 5 時間券でゲレンデスキー

【概要】

ニセコ到着の翌日ということもあり、雪と寒さになれるためゲレンデスキーへ。牧野は二日前に郵送した板一式がまだ届かず、三人を送迎して宿のそうじ。

ニセコのゲレンデは、天気がよければニセコアンヌプリ山頂へのゲートが開き、雄大なコース外が楽しめるが、天候悪くゲートは開かず、それでも三人は 5 時間券みっちりつつかって北海道の雪と寒さを楽しんでいました。

牧野はお昼に板が届き、料金のかねあいでもいわスキー場を一本。こちらのスキー場は、サイドカントリーが盛ん。午後はさすがにどこもボコボコでした。

○1/1 チセヌプリ

【ルート概要】 8:00 宿発～チセヌプリスキー場跡～チセヌプリ山頂～宿

【概要】

2022 初山行は宿出発で、チセヌプリへ。

宿からシールをつけていけるという立地がすごいところ。昔は町営スキー場だった跡地を抜けていく。跡地はいまはカナダ人が土地を購入して、キャットスキーを運営しているようで、普段だと敷地に入るのもうるさく言われるようだが、コロナの影響で客足も途絶え、最近はうるさくないそう。まだリフト跡は残っており、そのトップからは、チセの南側の尾根にとりつき、順調にのぼっていく。樹林限界を越えたところから風が強くなったが、田中さんが先陣切ってピークまで。山頂付近は 20m 以上の風があったか。ピークは写真だけとってさっさと下山、したかったが、暴風と視界の悪さで慎重に。樹林ま

で降りて、あとはスキー滑走。

北海道の厳冬期の厳しさを体験できた山行となった。

## ○1/2 真狩羊蹄山(通称墓地の沢コース)

### 【ルート概要】

8:30 真狩村配水地→11:50c1400 付近→滑走→13:00

下山

### 【概要】



滞在中の中で唯一天候が安定する今日。蝦夷富士とよばれる羊蹄山へ。

宿のほかの滞在者もみなさん同じコースを予定しておりわ、q、オーナーに通称墓地の沢コースというのを紹介してもらった。メジャーな真狩登山道のルートより疎林が多いそうで、地元の人たちでは一番メジャーなルートになっているよう。

どんずまりの車をおく車道スペースは、山スキーヤーのために真狩村が除雪してくれているとのことだが、除雪のために朝 8:30 以前には車を置かないという地元ルールもあるとのこと。

山やに優しい村である。

c300 から歩きだし、c600 まではひたすら斜度のないながい道。ルートにはほぼずっと先行者のトレースがついており、ノンラッセルで順調に標高をあげる。

地元の人たちは c1000 くらいでいい斜面のファーストトラックを狙って滑っていくが、我々は行けるところまで標高をあげる。c1400 までいくとその先は低木林の密林になっており、そこから降りることに。

すると、それまでガスガスだった視界が一気に見晴らしがよくなり、洞爺湖や海まで見えるほどに。テンションも上がり、一気に滑走モードに。みな思い思いの滑りで、標高 1000 を下っていった。

帰りは真狩村の温泉で汗を流し宿へ帰る。

## ○1/3 目国内岳

### 【ルート概要】

10:00 登山開始→13:00c850→14:00 下山

## 【概要】

山行最終日も天気恵まれず、1000m 付近で風速 20m の予報。どこに行くか悩ましい。ゲレンデという案もあったが、山に入りたいというメンバー意思もあり、目国内岳方面へ。目国内岳は昔は新見温泉まで除雪が入り、お手軽な山スキー山行ができるルートがあったが、いまは新見温泉がやっておらず、アプローチがながくなってしまっている。

蘭越町の少し町外れからとりつくルートがのぼられているが、車をおく場所が悩ましい。西田さんが廃屋のスペースを見つけてくれ、なんとか確保。あまり公にはできないか。

c150 からのぼりだし、大きなカンバみずなら樹林を通過していく。それでも時折強風が吹いていた。後藤くんが初めからほぼずっと先頭でラッセルを担当。ひとりもくもくとトップをいくその頼もしさと、的確なルート取りの成長を感じた瞬間だった。湿原地帯手前の c850 のまであがって下山へ。緩やかな斜面を少しはすべれるかと思いきや、なかなかの重雪で今度は西田さんがトップで下りラッセル。樹林内ワンダーリングの山行となりました。

### \* 後藤報告

12/31：スキー場で寒さに体慣らしを兼ねて滑る。

01/01：この日も天気は良くない。宿の裏山の感じでシールを付けて登り出す。森林限界を越えると

風も強くなり

吹雪模様 5m 先も見えない状況の中 GPS を頼りに頂上まで。風で身体を持って行かれそうだった。

山頂から逃げるように & 慎重に下る。

01/02：羊蹄山へ！他のパーティーも発っていて。トレースもあり楽しかった。常連さんが何本も登って滑って

いた。雪が良くて楽しめた。C1400 あたりで戻ることにする。その頃から視界が開け洞爺湖、海

も見えて展望も楽しめた。

01/03：風が強くて躊躇していたが出発。牧場の脇から入るが樹林帯でも風は強い。C850 付近から戻るが

雪も深く滑りは良くなかった。

\* 西田報告

冬の車での北海道行きがメイン？山は天気が悪かったがそれなりに楽しめた。

身体が寒さに慣れていない為か寒かった。

羊蹄山は良かった。

2022・1・8

⑩ 山域 北蔵王 笹谷阿古耶沢 形態：山スキー

メンバー 大竹 単独

今シーズン初の笹谷方面。

果たして積雪は滑られるだけあるのか？

今回は午後に来客があるので、ダメ元の下見を兼ねて出かけた。

結果は文句無しのOK！

しかも、固めの根雪に最近降った粉雪がふくらはぎまで積もっていた。

快適なパウダーツリーランが楽しめそうだ。

道路から離れ杉の植林を過ぎると、いつもの急な斜面に落葉樹林帯が大きく手を広げている。

その開けた斜面を見ると、登るファイトも俄然湧いて…と言いたいが、これは気持ちだけ。

体力が付いて行かない(悲

年々立ち止まって呼吸を整える回数が増えてきている。

それでもカタツムリ的速度で徐々に高度をあげ、左手の尾根に乗ることが出来た。

この辺りまで来ると景観もすっかりブナ森と変わり、これまでの荒い息遣いも気持ちも穏やかになる。

本日目標地点、尾根が斜度を緩めるc 980m地点で滑降準備に入る。

ここからの沢筋の滑走は実に快適だ。

しかもまっさらなノントラック斜面。

ブナの木をポール代わりに…というといかにもだが、そこまでいなくても本日のパウダー滑りは実に

快適だった。

こんな雪の状況であれば、ちよくちよく通いたい。

なにせ…

7:20 我が家発一笹谷ゲート行動開始 8:25～滑降開始地点の C980m10:30～笹谷へゲート 11::15

我が家着は 11:50。

十分遊んで、昼には家で食事と珈琲。

こんな手軽で贅沢な遊びは無い(と思う)

但し、「無事帰る」が前提。

## 記 大竹

⑪ 日付：2022年1月10日（月）

山域：蔵王・ライザスキー場～横川源流域

メンバー：L.鏡慶一、大竹牧夫、田中邦広、後藤遼太、他1

形態：山スキー

概要：7:00 赤石 P=8:30 蔵王ライザ駐車場=9:30 ゲレンデトッパー10:05 夏山リフト下刈田駐車場一入

ナンバ沢右岸尾根下降一11:20一枚石沢・横川堰一枚石沢右岸尾根登高一13:35ゲレンデト

ッパーゲレンデ滑走一14:00ゲレンデベース帰着一温泉入浴後帰仙

報告：

横川源流域のスキー滑降の偵察を兼ねた第一弾として入ナンバ沢右岸尾根下降、一枚石沢右岸尾根登高を計画した。予報から予想した以上の好天となり絶好の山日和。ライザからは登山者・山スキーヤーが続々と登っていた。すっかり立派に出来上がった広大な樹氷原、背後には月山から朝日飯豊吾妻の大展望が広がる。



夏山リフトの駐車場付近から刈田コースを外れて樹氷原の中にルートを決める。平坦な傾斜で最初はシール歩行、シールを剥がしてからも滑るというよりは歩くスキーが続く。ブナ林に変わるあたりから滑れるようになるが、樹林が密で快適滑降とは言い難いが、対岸の杉が峰の眺めなど、風景が新鮮だ。尾根末端近くなってゲレンデのような無木立斜面。そこから右手に進路変更して横川堰に下りるところで、ようやく滑りが楽しめた。

昨年の6月以来の横川堰で大休止し、一枚石沢を対岸に渡って登り返す。ここから後藤君が先頭でラッセル。最初に尾根に乗るまでのルートが急で苦労するが、ここは手前の作業道から行けばもっと楽だったはず。尾根上は広く登りやすい斜面になる。疎林の魅力的な斜面が続く。（ちょっと滑って登り返してみればよかったと後悔。）登り切ったところからは平坦なブナ林になり、エコーラインのカーブを二つ経由するジャストなルートファインディングでスキー場のトップに戻った。ずっと先頭でラッセルの後藤君はさすがの体力。最後はゲレンデを快適に滑降して終了。

天候と展望に恵まれ楽しく山行、尾根はあまり滑れなかったが、周辺に面白そうなところをいろいろ発見し、収穫があった。

## 記 鏡

⑫ 日付：2022年1月10日（月）

山域：宮城蔵王すみかわスキー場～パラダイスツアーコース

メンバー：L.鏡慶一、後藤遼太、田中祐樹

形態：山スキー

概要：9:30 すみかわスキー場ベースー観光道路ー11:50 清溪小屋ー12:30 エコーラインから戻る

ー13:50 井戸沢横断

ー14:40 ゲレンデトップー15時ゲレンデベース帰着ー澄川小屋・新年会へ

報告：

当初計画は中央コースからエコーライン経由でパラダイスコースを下り、前山を往復する予定だったが、強風でリフトはストップ。観光道路からパラダイスコースを登り前山を目指すことにする。ゲレン

デからパラダイスコースの樹林内に入ると風当りは弱くなるが、ラッセル深く清溪小屋で12時近くなり、前山はやめてエコーラインまで行って戻ることにした。

パラダイスコースはなるべくオリジナルのプレートのコースを目指すが、井戸沢からの登りで南側に追いやられ、廃リフトが見えるところまで行ってしまう。上部の平坦部はコンパスを頼りに進むが雪面の凹凸で真っ直ぐは進めない。それでもうまく一高小屋に出た。清溪小屋は一階は埋没、二階入り口に屋根の雪庇が覆い被さり、入るのは大変そうだった。一箇所窓が空いていて雪が吹き込むので閉めてきた。

大半のラッセルを後藤くんがやってくれたが、付いて行くのが大変だった。新・セカンド殺しか。田中くんはまだスキー板の扱いに苦労していて、だいぶ体力を消耗したようだった。自分も澄川小屋に入ると結構疲れていてぐったりした。いいトレーニングになったようだ。

## 記 鏡

⑬ 葉山おんどり尾根

行動日 2022年1月22日 晴れ&くもり

メンバー LL大竹 西田 後藤 荻野 山村 以上5名

6:40 在仙4名が西田車でもしもしPを出発し、村山あいかも蕎麦屋の駐車場で荻野車と合流後大鳥居へ向かい、9時に行動開始する。

天気も良く大汗を掻きそうな気温だ。

期待通り？先行トレースがしっかりと付いている。

どこでもそうではあるが、特にこのルートでは尾根手前の急斜面で差が出る。

例年より雪は多く、カーブミラーも鏡面ぎりぎりまで埋まっていた。

トレースに従って三枚平を過ぎ、杉の植林帯から本格的な上りとなる。

植林帯上部の無木立斜面を上ったところで一本。

ここからが本格的急登なのに早くも大汗。

ブナ森の中に入り、西田君をトップに高度を上げる。

2月も半ばを過ぎると、ここからの急斜面は高度を上げるにつれて雪も固くなり、踏ん張りが効かずス

キーアイゼンが欲しくなるころだが、今回は時期的に早いせいか降雪が続いたためか雪面は柔らかい。

先行トレースに沿って思いのほか楽に尾根に乗ることが出来た。

C927 付近で 2 回目の休憩。

後から上ってきた村山の単独者に甑岳のスキー登山情報を聞く。

かなり詳しい情報を持っていた。

それにしても山村さんは、昨日高松岳へスキー登山をしての今日。

その疲れを微塵も感じさせないガッツある行動に脱帽。

荻野君も土曜日に秋田を出て肘折温泉に泊まって本日の参加。

若さを通り越した行動力。

休憩後はたおやかに広がる尾根をのんびりと進み 1081 ポコでちょうど 12 時。

本日の行動は終了とする。

戻りの滑りは実に快適だった。

パウダーとまではいかなくても雪質は軽く、急なブナの疎林斜面を全員気持ちよさそうに飛ばしていた。

何度か通ってはいるが、滅多にない快適滑降だった。

後はトレースに従い三枚平を過ぎて

車デポ地へ。

ここで荻野君と再同行を約束して別

れ、東根太田の湯へ。

400 円也。

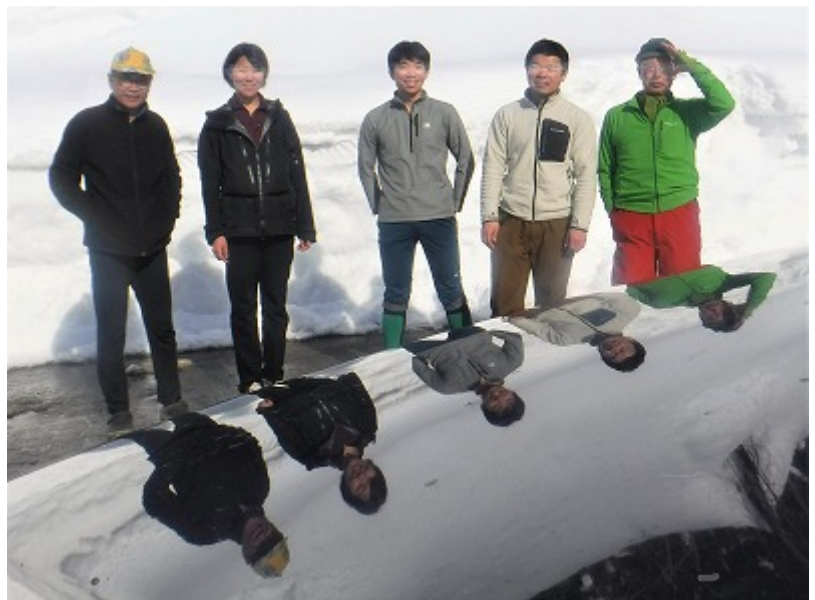
湯上りで西田君が、なにやら赤い色の飲み物を手にしている。

「何？それ」

「ン、赤紫蘇ジュース。健康にいいから」

西田君も年相応に気遣うようになったのか？！

それよりビールの量を減らしなさい！（^^





タイム

大鳥居車デポ地 9:00～p 1081 着 12:00(休憩) = 滑降開始 12:25～車デポ地 13:15

記 大竹

⑭ 日付：2022年1月23日(月)

山域：蔵王温泉スキー場～五郎岳～不動沢林道 形態：山スキー

メンバー：L.鏡慶一、伊藤信弘

概要：9:00 黒姫グレンデ駐車場 = 9:30 地蔵山頂駅観光道路 - 10:00 中央グレンデ - 10:30 五郎岳 - 不動沢右岸尾根滑降 - 11:20 C1269 - 12:30 C869 - 13:00 林道植林地 - 13:30 不動沢林道分岐、  
駐車地点 = 車回収へ

報告：

五郎岳から不動沢林道分岐まで標高差約1000メートル、地蔵山頂駅からは1300メートルのほぼ下りのルートだったが、

滑川のローソンで伊藤さんと待ち合わせ、素晴らしい天気。終点に車を1台デポし、せっかくなので黒姫駐車場からリフト・ケーブルで山頂駅へ。ザング坂からパラダイスへ爽快に滑降、リフトを乗り継いで中央グレンデ。コース途中からシールを付けて五郎岳に登る。ヤブがうるさい急斜面で意外に苦しい登りで五郎岳。めったに来ない所なので眺めが新鮮だった。ここから北尾根、不動沢の右岸尾根を下降する。最初の林道横断地点でややルートをはずれ軌道修正。尾根を間違えると大変なのでGPSをまめに見ながらの下りになる。尾根の右側が雪庇、尾根上は風の影響で凸凹があり滑りにくい。C1269からの下りはやや広い斜面



で、唯一滑りが楽しめる。途中、対岸の雁戸山の眺めが迫力だった。下部は樹林がうるさくなり、細い尾根の急斜面など厳しい下降が続く。植林地の作業道に出て苦行から解放される。

細かいピークの登り返しもあり階段登高も多く、気楽な滑降ではなかったが、静かな山を楽しむマニアック山スキーだった。伊藤さんありがとうございました。

記：鏡

⑮ 2022年1月30日

山域 蔵王 坂元沢（山スキー）                      メンバー 布施直之 香織 他1

幡野さんに誘っていただき、かおりと笹谷・坂元沢に行ってきました。

今シーズン初のスキーで体力的にも心配でしたが、パウダースキーを楽しめました。幡野さんに感謝です。

笹谷 IC 奥の除雪エリアに駐車。私達に前後して、7～8台の車が来て、駐車エリアは一杯になりました。

8時過ぎに出発。山形道を潜って、阿古耶の松から尾根に取り付く。

晴れたり曇ったり雪が散らつく時もありましたが、風も弱く、この時期としてはスキー日和かもしれません。

C758 から尾根伝いに上がって、C1050 付近でシールを外す。

坂元沢への下りは、膝くらいのパウダーで、気持ちがいい滑りです。

林間が広めで、傾斜が緩急織り交ぜた、滑りごたえのある斜面で、C650 くらいまで下りました。

ここからシールをつけ直して、登り返し。

C800 くらいまで登って、シールを外し、隣の沢、通称阿古耶沢に滑り込む。

ここも林間の斜面だが、パウダーで最後まで滑りやすかったです。

駐車場 14 時着。楽しかった～。

家に帰ると、すでに腰が痛い！

最近の運動不足のツケか？今日は20時には寝れそうです。

記 布施直之

⑯ 山行報告

湯殿山

山行日 2022年1月29日 曇り時々雪

メンバー L大竹、深野、牧野、阿部、他1

我々男性3名は6:50、大竹宅から僕の車で志津へ出発、女性2名とは志津の現地集合となり、山形道の笹谷トンネルを抜けると圧雪、天気予報は冬型の気圧配置となるようです。

今日は吹雪？ 修行山行？ 快適に疾走する車の中は他愛のない会話、Yの将来？

私の山行に対する関わり方を大竹さんが熱いアドバイス、私自身の変革、いや、先ずは一步踏み出す？そんな思いを車に乗せ寒河江を通過するころは太陽も顔を出し、穏やかな光、思いのほか今日は天気が安定するかもしれない。

西川から一般道へ15分遅れで現地合流。

駐車場は車3、4台ほど、駐車するには楽だが少ない。

久しぶりに安達聡子さんに会うが何年ぶりだろうか？  
まだあどけない少女の面影を少し残した子が見ない間に少女から大人になった印象でした。

9:05 志津を出発、ほぼ風もなく静かな登りの始まり、太陽のやさしい光を体を感じ心が



癒されながらほどよく歩くと大竹さんの定点観測の表示案内板、手を伸ばすと表示板触れることができます。これで今シーズン積雪量チェック、集合写真を撮り9:35に自然博物館通過し、徐々に傾斜が上がると汗で服が蒸れてくるがほどよい風が体を包み込みむしろ快適だが、メガネが曇るが不愉快である。ひたすら先行トールスを追って行く。かすかに姥ヶ岳が見え隠れするのを見ながら石跳川を渡り、10:00、湯殿山南東稜線にとりつく10分程休憩、何気ない会話であるが心が弾む。環境なの？さあ最後の急登、しかし急登になるとうまく登れません。スキー板の性、うまく踏み込めないし、メガネが曇り見えないし、11:15 1305Mで行動終了。下りの準備を行い11:30下り始める、安達聡子さんが真っ先に飛び出し滑走、次々と滑走。みんなきれいに思い思いにトールスを描いて行く、安達聡子さん自信溢れた滑り、大竹さんきれいな滑りを牧野さん冷静沈着、深野さんわが道を行く。

僕はやっとの思いで滑り、みんな上手すぎ、雪質は悪くはない。1時間滑走、12:30駐車場へ戻る。

今シーズンは湯殿山山頂を踏む！滑る度に思うがうまく滑りたいが進歩ない。

今回は先行トールスを追って、赤布の目印もあり何も考えずの山行でしたがでも滑りは楽しい。ただ、急登の登りが思うように上がりません。スキー板の性、みんなに聞くとお前が下手？あっさりと切られた。

帰りは出羽屋で山菜そばを食べ、大竹さんの最後の演出が凄すぎる。完璧！

その後解散し我々3名はうなぎ湯へ今日の疲れを流し仙台へ帰路。

極上の一日。

タイム

志津駐車場 9:05～9:35 自然博物館～10:00 南東稜線～11:15(1305M)着、11:30 (滑走)～12:30 駐車場

記 阿部

⑰日付：2022年1月30日（日）

山域：蔵王ライザスキー場～横川源流～横川堰

メンバー：L.鏡慶一、後藤遼太、丸山哲生

形態：山スキー

概要：9:45 ライザゲレンデトップー10:50 エコーライン上部ー入ナンバ沢左岸斜面滑降ー12:20 横川・入ナンバ沢出合から登り返しー13:25 横川堰ー14:37 エコーライン1360m カーブー15:20 ライザゲレンデベース帰着

報告：

前回は快晴だったが、この日は上部雲の中。エコーライン上部から入ナンバ沢左岸側の斜面に入るが、最初はガリガリの急斜面で滑りにくい。しばらく樹林の抜けた斜面が続くが、クラストの上のパウダーで雪崩が怖い。樹林に入って滑りやすくなるが、細い沢が出てきてひっぱり込まれる。横川本流に出る手前でシールを付けて迂回し入ナンバ沢出合で対岸へ。一旦尾根上に登り返してから横川堰へ。あとは前回のルートでエコーラインのヘアピンに戻る。エコーラインに出たら風雪強くなり、ゲレンデに戻

るのも時間がかかった。寒さが厳しかったが、地図を眺めながらのルート取りが面白かった。 記：  
鏡

⑱ 2022年2月5日 七日原から前烏帽子岳

曇り パウダー

L大竹 後藤

まず初めに、「後藤君、ありがとう！」

今回の前烏帽子岳、

単独だったら間違いなくc1041辺りで引き返していたと思う。

単独：個人的に、バリエーションルートは仲間と行動出来る休日、ウィークデーはトッショリの単独でも許容範囲の行きなれた近場のルートかメジャールートと、決めてはいないけど意識はしている。

当然、事故リスクを低減のため。

後藤君が手を上げてくれた！ 山頂への希望が持てた！

この南東尾根は、馬ノ岳に登る度に[おいで おいで]をしていて、ずっと気にかけていた。

今日は、それを実現させる日。

蔵王ハートランドを出発。

直線道路突き当りの脇の除雪場所に車を置いた。

気持の良い広大な牧場雪原を進む。

今回は地図上の道通り左手前方の牧場施設脇を通ったが、ハートランドから真っすぐ進んだ方が楽である。

途中、カメラを落としたことに気づき戻った。

幸い見つけることが出来たが30分近くタイムロス。

東北大惑星観測所からダイレクトに神嶺林道を目指す。

今回の取りつき箇所はC795尾根より一本南の尾根だったが、途中左手に尾根に向かって真っすぐ伸びる林道を見て計画変更。

これが正解で、急登となるC800地点まで林道が伸びていた。

急登開始、後藤ラッセルが膝近くの雪を掻き分けレトロ列車を引っ張る。

藪は思ったほど濃くはない。

ちょうど C1000 から植相がブナ林に変わる。

1104 の本尾根に乗ったが、広いので合流した感じがしなかった。

この先 1401 までは尾根が細くなり、木々の交差した波状の小さなアップダウンが続く。

後藤君が力強く一つ一つを乗り越えていった。

ここまで来ると僕はバテバテ、時折左足ふくらはぎが吊る。

一步一步が辛い。

細尾根になってから風もかなり強くなっている。

それでもどうにか山頂着。

風も強いのですぐ下山開始。

細尾根の下りは、時折左手雪庇の下を迂回しながら滑った。

途中、風でトレースが消えている。

時折現在地を確認しながら気持よく C1000 までのブナ森を滑ることができた。

そより下部の雑木林も阿古耶沢に似た斜面で、思ったほど藪も苦にならなかった。

気持よく滑る林道を下り、無事真っ白に広がる牧場に出ることが出来た。

振り返っても山の姿は雲の中。

おそらく七日原からの前烏帽子は Y では初トレースではないかと思うが、七日原を通る度に引っ掛かっていて宿題を終えた気分。

想像以上に、登り甲斐・滑り甲斐のある良いルートだった。

改めて、すべて先頭ラッセルの後藤君に感謝。

タイム (5 時間)

ハートランド 8:35— (途中落としたカメラ探しで 30 分弱ロス) —神嶺林道 9:55

—C950(休憩)—C1000 ブナ林 11:15—山頂 12:30—ハートランド 13:35

記 大竹

⑨ 会山行参加の皆さん、お疲れ様でした。報告です。

記： 鏡

山域・目的地：栗駒山・岩魚森

期日：2022年2月11日（日帰り）

形態：山スキー

メンバー：L.鏡、西田、坂本、伊藤、大竹、阿部、後藤、引地（会友）

コース・タイム：

耕英、御沢の橋より入山(9:20)ー御沢左岸から尾根ーC880 夏道横断地点付近(11:00)ー岩魚森(12:20)

ー岩魚森南面滑降ー急斜面下で休憩(12:35～13:00)ー御沢の橋帰着(13:50)

報告：

当初は雪洞掘りなども計画していた2月会山行だったが、オミクロン株の大流行や深野さんがワクチン接種で参加できなくなったりと曲折があり、日帰りでの岩魚森往復となった。それでも久しぶりの引地さんの参加もあり、8名での賑やかな山行になり、また天候にも恵まれてゆっくり栗駒のブナ林を堪能できた。



かな山行になり、また天候にも恵まれてゆっくり栗駒のブナ林を堪能できた。

駐車場所が懸念点だったが、御沢の橋近くの作業小屋前が除雪されており、そこに駐車させてもらって準備していると、ちょうど犬を連れた数又さんが来られ、駐車を断ると快く許可して頂いた。（事後承諾だが、、）

御沢の沢沿いをしばし進み途中から左岸の尾根上に乗る。ゆるやかなブナ林の登りが続き途中クロベも混じる。C864 西側の谷状から尾根に戻るとちょうど表掛けコース夏道が横断しているあたり。さらに岩魚森目指して登って行くと、急斜面が始まる。ブナの大木のところで坂本さんがストップ、急斜面を半分ほど登ったところで引地さんもリタイア。残り6名でピークを目指す。西田、後藤、阿部の3人がトップグループでトレースを切ってくれて、後続も急斜面を這い上がる。

やや雲があるものの厳冬期の栗駒には珍しい穏やかな天気と周囲の展望を楽しめた。滑降もやや重雪ながら、栗駒らしい樹間の広いブナ林の斜面で楽しめた。坂本さん達が待機していた巨木のまわりで大休止。静かな山の中の賑やかなひと時だった。

途中で大竹さんがはぐれそうになる一幕もあったが、概ね順調に下山。数又さんの奥さんに挨拶してから、くりこま荘で「密」な温泉に入って汗を流した。

山も良かったが、数又さん夫妻に久しぶりにお会いできて、お元気そうで何よりだった。

⑳ 期日：2022年2月12日（日帰り）

山域・目的地：船形・後白髪山 形態：山スキー メンバー 鏡 後藤

コース・タイム：

定義林道入り口出発(8:01)ー登山道分岐(8:27)ー林道 4km 地点(9:18)ー890m 橋(10:21)ー1340m ピーク(11:45)ー後白髪山山頂(12:07)ー1340m ピーク(12:42)ー林道 950m(13:20)ー林道 4km 地点(13:46)ー林道入り口帰着 (14:13)

報告：

定義から後白髪のコースは仙台近郊の有名な山スキーコースだが、今まで縁がなく行ったことがなかった。以前一度計画したのだが、3月で既に麓に雪がなく止めたことがあった。今年の雪なら大丈夫だろうと、会山行の翌日だが計画してみた。

前日に続いての好天、出発地点の定義林道入り口には他の車はなく、我々パーティだけらしいが、林道には過去のトレースが残っていた。しばらく林道を辿り、途中から作業道風の登山道に入る。杉の植林地から尾根上に出るとミズナラとブナの林になる。一旦林道に再会、定義林道 4 km 地点の看板がある。通常のコースはここで林道を横断してそのまま尾根上を辿るらしいが、今回はバリエーションとしてしばらく林道を進み、1340m ピークに直登する尾根を目指す。日が当たる林道では徐々に雪が団子になってシールに付着するようになってきた。林道が沢を渡って屈曲する地点付近から林道を離れて尾根の登りに入る。ここで後藤君にトップ交代、ラッセル車に引っ張ってもらう。急登が標高差 450m ほど



続き辛抱どころだが、ピーク近くの樹木に雪の花が咲き、目を楽しませてくれた。

1340m ピークから後白髪の頂上へは、緩い登りだが結構遠く感じる。天候不良ならさっさと帰るところだ



が、この日の天気では行かざるをえない。急登の後でだらだら登りもしんどく感じたが、山頂はまた一際素晴らしい展望だった。

シールのまま 1340m ピークまで戻り、ここから滑降開始。ピークからほぼ南の急斜面を狙う。入り口がややうるさい樹林だが、避けながら高度を下げると徐々に樹間が空いてくる。雰囲気的には泉ヶ岳の滑降コースに近い。左右に樹林の開けたラインを探しながら滑って行く。南斜面なので雪はやはり腐りかけているが、まだ悪雪手前で楽しめた。

小沢が林道にぶつかるところで林道に乗る。急登の疲れと重雪滑降で筋肉が悲鳴を上げ、ここでドーピングタイム。芍薬甘草湯のお世話になり、ついでに大休止。後は林道滑降だが、4 km 地点までは意外にスキーがよく滑り、快速で到達。登山道に入ると狭い樹林と植林地に雪も重くなり、太ももの負担が重くなるが、それでもスキーは速い。ピークから2時間かからずに下りて来られた。

アプローチの林道と登山道がやや長めだが、雪のある時期を選べば十分楽しめるコースだと思う。登りに使った直登尾根を滑っても良さそうだし、林道が嫌でなければ通常コースよりも能率的のような気がする。

定義山に寄ってゼロカロリーのあぶらげを食ってから帰路に着いた。

記； 鏡

㊦ 2022年2月20日 曇り

蔵王 水引入道尾根から馬ヶ岳尾根へ

L 大竹 阿部 後藤

今回の水引～馬ヶ岳ルート。

昨年の同時期に馬ヶ岳を時計回りで周回した際、尾根上から雪に埋もれた垂清沢の状況を見て「降りてみたい！」

今回、阿部・後藤君のサポートを受けて行動に移すことが出来た。

8:30 早くも車が一杯の白石スキー場Pを出発。

神嶺林道の入り口には、材木が積み上げられ封鎖されていた（スノーモービル止め？）

乗り越え、進み予定通りコガ沢を過ぎた屈曲点手前から藪斜面に入ったが、屈曲点の先に作業林道があ

り、そこから入るのが正解(戻りの際確認)。

途中でその林道と合流するも C1000 辺りで消える。

とにかく藪がうるさい。

それでも、高度を上げるに従って疎藪となり 1150 辺りからブナが現れる。

1300 ポコで夏道と合わさり、ここで初めて水引山頂の全容が望め、馬ヶ岳も右手に現れる。

ここからと 1400 地点からが今日の垂清沢横断計画のポイント。

時間も迫ってきており、山頂部の状況も芳しくなさそうなので、この先を少し辿った辺りからシールを外して沢へと降りた。

急なブナの疎林帯を雪崩に留意しながら降りる。

なにせ先日までの降雪パウダーが 20 cmほど乗り、その下はガリガリ君。

慎重に下って行った沢は一部口を開けていたが渡渉に問題は無い。

対岸から再びシールを付け登行開始。

100m超の急登を後藤君先頭に上ったが、この辺りは太いブナの疎林斜面で魅惑的な斜面だった。

馬ノ神への尾根に乗ると、その斜面は雑木の藪で見えない。

素晴らしい隠れブナ斜面。

馬ノ神山頂は、風に晒されているようだ。

12時もまわったのでシールを外し、神嶺林道に向かって降りたが、滑るには木がうるさ過ぎた。

後は黙々と林道を歩き白石スキー場へ。

結論=本日のルートは、スノーシューor ワカン向きで、スキー登山としては ややスカ。

垂清沢上部両岸はあちこち良さげな斜面はあるが、アプローチを考えると・・・。

それでも水引から馬ヶ岳への垂清沢渡りが出来、阿部・後藤の二君はともかく、個人的にまずは満足。

タイム 白石スキー場 8:30 ~ 神嶺林道から尾根へ 9:00 ~ 垂清沢へ滑降開始 11:20

~ 沢底 11:30 ~ 馬ヶ岳尾根 12:10 ~ 神嶺林道 13:40 ~ 白石スキー場 14:20

記 大竹

㊦2022年2月23日 蔵王 番城山 曇り

L鏡 後藤 大竹

R13 から古屋敷への道は、きれいに除雪されていた。

番城山への取りつき林道は地図上の古屋敷からだが、沢筋に道があると思っていたら左岸から上るよう  
にあった。

分かりにくかったが、幸い2名の先行トレースがあったので難なく入ることが出来た。

2名の一人は、地元の山スキー愛好家の中では一目置かれている阿部さんらしい。

駐車サイドミラーに、丁寧に詳しく紐付きのビニールケースに入れて山行届としてぶら下げてあった。

さすが。

林道は、ブルのキャタピラで開かれており幅も広く歩きやすい。

なだらかな坂道を進むと、キャタピラの”主”達が木材の運搬の仕事をしていた。

軽く挨拶をして脇を通る。

この先からは阿部さん達のトレースをひたすら追った。

途中 C600 付近に渡渉箇所があり、スキーを外して渡るも浅く狭いので問題は無かった。

林道は C850 近くで消え、藪っぽい斜面を進むことになったが、先行トレースのおかげでラッセルも迷うこともなく進むことが出来た。感謝&感謝。

しばらくは藪尾根筋を登る事になるが、最初は細尾根ながら広がるにつれてブナの疎林が現れ、実に気持の良い斜面が広がる。

斜度が増す手前でトレースは、左手をトラバースするようになっていたが、初見の我々は素直に尾根筋を登った。

後藤ラッセル車を先頭に最後の急登を登り終え、主稜線へ。



稜線上は藪が続き、風も強くなって結構難儀した。

到達した山頂は小さなポコだが、二つ森山へ向かう主稜線には魅惑的なオープンバーン。

加えて東面も無木立。

晴れていたなら絶景だろう。

下りは藪を避けて巻くように滑り、往路のブナの森を自由に楽しんで林道へ出たが、その林道も実に快適で3人で飛ばして戻った。

休むことなく滑り降り、無事古屋敷着。

阿部さんの車はまだあった。鏡さんの話では、下山予定が5時と書いてあったそうだ。

タイム

後藤宅 6:40 大竹宅 6:50—古屋敷を出発 8:55～林道渡渉点 9:35～林道終点 10:20?

～山頂 12:10—12:20～古屋敷 13:50

\* 帰りは、鏡さん案内の上山温泉の「名人の湯」を利用。300 円也。4 人は入れる程度の小さな湯舟だが、素朴ながらカフェもある。良いところ。 記：大竹

②湯殿山

実施日：2022 年 3 月 5 日 山域：湯殿山 形態：山スキー

メンバー：L 後藤 大竹 丸山

志津(9:05)—皮松谷地(10:00)—ブス沼(10:45)—湯殿山南東尾根 C1300 付近(11:25)—

皮松谷地(12:15)—志津 (13:00)

今シーズンはほぼレギュラーメンバーと言った具合の大竹さんに丸山さんが加わり、今回は湯殿山へ。

個人的には入会して4年ほどになるが、未だ湯殿山に登る機会にあずかることが無かったので内心、ガイドブックで伝え聞く広いオープンバーンとやりに期待を抱いていた。高速を走り西川へ。途中パトカーが前方に現れ唐突にサイレンを鳴らし始める。

何事かと思えば、対向車線で車がひっくり返る事故があり、そこへ急行していたようだ。路面に雪はほとんどないとは言え、油断禁物だと感じた。

いつも通り志津の駐車スペースから出発。トレースがついているのを見て大竹さんが皮松谷地経由の

コース採用を決定。

しばらく黙々と雪を踏みしめて歩く。除雪のブルと思われる重機の音を遠くに聞きながら、無風の春の陽気を堪能して歩いた。皮松谷地に着くと視界が開け、湯殿山の山容が現れた。噂通りの真っ白い斜面が見え 登高意欲が高まる。また、姥ヶ岳とその脇に月山も見えた。先週のお地藏様の参拝のおかげでこの好天であろう と、前週の敗退を正当化する。ブス沼までも同様に静かなスノーハイクを堪能した。

遠くに先行者二人を眺めながら、湯殿山南東尾根への取りつきを開始。途中かなりの傾斜部があったものの、大竹さんのアドバイス通りほぼ直登できた。

急登を超えるといよいよ風が強くなった。ストックでめくられた雪面の欠片が斜面を登っていくほどの風で、不思議なものを見る思いで登っていく。幸い、ここでも風は冷たくはなかったので、風を背にアシストを受けながら高度を上げていく。

C1300 付近まで到着するといよいよ風が強くなり、ここで終了。風音で会話が困難なほどの強風の中、滑降準備。シールが風で暴れて収納に少し難儀する。いざ滑降という時に一際強い風が吹き、雪礫が顔に当たって痛いほどだった。

さて、大竹さんをトップに下っていく。急登の終わり辺りまで 高度を下げるとようやく会話に支障がない程度の風となった。同時にやや重くなり始めた雪を、各自思い思いのルートでブス沼まで下った。

ブス沼からはいよいよスキーの滑りも悪くなり、我慢の往路となった。皮松谷地まで戻り大休止。ラーメンタイムの中、いよいよ天候が崩れてほとんど雨といった具合のみぞれが勢いを強め始めた。

予報によると悪化の一途であるらしいので、そそくさと往路を戻る。駐車場まで来ると、除雪作業のブルが 3 台出動準備していた。駐車場では完全に雨となった。上部での強風と復路での降雨と、当初予期した好天とはいかなかったが、湯殿山の斜面で遊べたことや、川松谷地からの展望を春の陽気の中堪能できことを思えば、上々の内容だった。

記；後

藤

㊤水引入道 2022. 3.7(月)

伊藤 単独

天気：午前中曇り時々強風、小雪 午後から雪、スキー場であら

れ。

コースタイム：白石スキー場 9:30—ジャンボリーコース—手前林道入口 9:50—カラマツ人工林出口 10:15—山頂東面取付 12:10—山頂 13:00~20分—白石スキー場 14:30

コメント

快晴予想が見事にはずれ、山頂では雪となりました。スキー場はクローズ。

ジャンボリーコース手前の林道から入りカラマツの人工林をアルバイト

あら、快適、なんと粉雪、ここはニセコ？

昨日からの強風と低温で上等な雪質に変わったらしい。

最後の山頂直下までは快適だった。

なんと斜度 35 から 40° の直下斜面はカチカチのアイスバーン！強風で雪もまだら。アイゼン持参せず、悔やまれる。エッジをきって、騙し騙し登行。足早に山頂を踏み滑降開始。

屏風の下部斜面だけ見え、不気味。

アイスバーンを慎重に斜滑降で降りてからは膝までの粉雪でした。

さすがに途中の樹林帯は間隔が狭く快適とは言えないが、雪質はいい。

カラマツ林からはちょっと重い雪。

天候に恵まれなかった分、雪質が良く満足。でも、アイスバーンも予想

した装備は今後の課題です。以上。

記：伊藤

㊥ 3月会山行 2022年3月12日

吾妻大沢下りから鉢森山へ転進 (強風でゴンドラ運行休止のため)

メンバー；L 後藤 SL 阿部 大竹 伊藤 鏡 西田 木村 他2

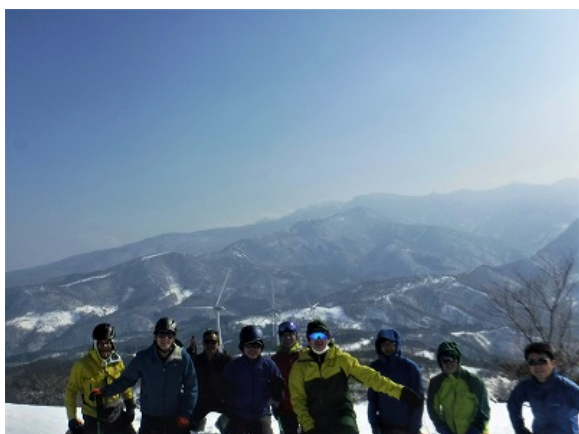
三月会山行リーダー(?) こと後藤です。山行というかドライブの顛末を報告します。

6:15 分頃にもしもし P 集合、西田車と阿部車の 2 台で出発。途中、蔵王 P で伊藤さんと合流して飯坂温泉のセブンイレブンへ。毛利さんらと合流。ここまでは大体予定通り。

国道 13 号を西進するが、ここで問題発生。予定していた水窪ダム脇を通り抜ける道が除雪されておらず、迂回を強いられる。途中、若干道に迷いながらも大沢駅に到着。駐車スペースを予定通り駅付近にしようとするが、地元住民の方から、車を置くなれば集落入口付近の道幅の広いところにして欲しいとのこと。指示された位置に車をデポし、天元台へ。西田車のガソリン残量が心もとないの、途中ガソリンスタンドを求めて若干さまよう。遅れながらも白布温泉にたどり着く。が、ここでも予想外な出来事。天元台スキー場の駐車場が満車とのこと。仕方がないので付近の温泉宿の駐車場に停めさせてもらえないかと交渉してまわる。幸い、親切な旅館の厚意にあずかることができた。とはいえ、そこからスキー場までのアルバイトも加算される。出発時点で 10 時 30 ごろ。高所は風が強そうであり、この時点で山行実施は危ういものであった。とはいえ、一応ロープウェイで上まで行ってみようということで、出発。ゴンドラ乗り場に到着しておよそ 11 時。ここで、追い打ちと言わんばかりに強風でリフトが運休になった。これにはなすすべ無しということで転進開始。

栗子の廃スキー場へと向かった。廃スキー場とはいえ、地権者(?)が元ホテルの建物で何やら作業しているので、大竹さんが入山許可をとりつけようと交渉しようとするが、「入ってダメ」の一点張りだったとのこと。仕方無しにさらに代案、板谷から鉢森へ。

昼過ぎにようやくスキーを履き、歩き始めた。風は強いものの、気温は春山のそれだった。張り切ってトップを歩いたが、ここでアクシデント。先行 6 人と後方 3 人がはぐれた。幸い、鏡さんが電話連絡をとってくれたので山頂付近で合流できたが、先行が樹林に入った瞬間、尾根を歩いていた後続がトップを見失



うという、マンダノ沢の事例と似たことを繰り返してしまい、大いに反省する。気を取り直して尾根に取り付く。標高のわりには見ごたえのある雪庇を眺めながら歩いて間もなく山頂に。滑走予定だったルートが向かいに眩

しく見えた。風車に向かって斜面を滑走。あっという間に風車の下に。そこから少し移動して樹林の中でラーメンタイム。春の陽気のなかの大休止という牧歌的な情景に、巨大風車の影と風車の動作音が水を差す。風力発電がもたらすデメリットについて改めて認識した後、車置き場まで戻った。ここで、毛利さんたちと別れて風呂へ。桑折町のうぶかの郷へ向かったが、コロナ対策ということで一度に浴場に入れる人数に制限がかかっていた。ここでもパーティが分断され、最後の最後まで冴えない内容の山行となってしまった。

行動中の反省点としては、5人を超えるような大人数の場合は、見通しのきくルートでも慢心してはいけないと思った。また、簡単なルートでも大人数では、グループを班のようなものに分けてそれぞれのリーダー役に無線機の所持と班の人数確認を手伝ってもらうように頼むべきだと感じた。

記：後藤

㊦ 吹越山            3月20日    曇り

メンバー 大竹（単独）

小野田から雨と風。

それでも山の懐に入ればなんとかなると車を走らせた。

最終集落から圧雪道路。風も若干弱くなり雨も雪に変化。

鍋腰峠トンネルを越えて三つ目のスノーシェード出たすぐ左手に雨量計が設置してあり、そのためなのか3台分ほどの除雪がされており、ここに駐車。

そのスノーシェードを戻るように抜けて行動開始。

意外と地図で見るとより斜度がある。

この時期あちこち地図で見えない沢が口を開き加減であちこちウロウロ。

雨後の低温のためかずっとクラスト斜面でバリバリと音を立てながら進む。

最初の小さな沼を右手から巻こうとしたが沼の先も沢が割れそうな気配。

高巻きついでに近道を、と欲張ったらまったく方向に進んでいるのに気付く。



「エイ、ままよ！」と、若畑沼経由は止めてそのまま尾根に上がった。

この尾根は、昨年鏡さん、荻野さんの二人と行動した際の県境尾根。

ここに上がった途端、強風。吹越は流れるガスの中。

初見ルートに加え単独でもあり、当然無理せずギブアップ。

尾根を回って途中から若畑沼へ降りました。

船形の鏡沼を思わせる若畑沼へは、3本の沢が流入しているが、上る際は左二本がベストである。

僕は、ベストでない右手を降りました。その沢底も口開け気味。

雪は厚いクラストと全面ストップ雪でまったく滑らず、ワンターン毎に「どっこいしょ」

吹越山に軽く吹っ飛ばされてきたが、ブナ森が広がる実に美しいルートでありました（満足）。

元気でいれば、好天パウダーの時期を狙って来年こそ！

タイム 取り付き地点 8:30—戻り 11:40

記：大竹

㊦ 2022年3月21日(月) 蛇ヶ岳から三峰へ スキー登山

L 鏡 後藤

町は晴れでも山は依然雪雲の中でした。登山口には車多数、かなり下の方にも駐車してましたが、軽自動車を隅っこに停めて出発。天候回復を期待しながら登るもずっと雪模様。それでも気温高め、風それほどでもなく、蛇ヶ岳から三峰へ。

三峰のピーク手前から沢状を滑って南面へ。

ブナ林は新雪が積もっていて、望外のパウダーでした。



一旦シールを付けて東尾根へ。尾根末端の急斜面は苦行でしたが、2時過ぎに下山。今回は敗退せず計画通りで満足の山行でした。

三峰南斜面はやはり良かったです。麓にテントを張って何本も滑りたいです。

写真と後藤くんの滑降動画を onedrive に入れました。

記 鏡

湯殿山 2022.3.26 (土) L 阿部 伊藤

雨予想もあるなか、6.00 赤石パーキングより出発。高曇りのなか、蔵王はうっすら遠望できた。笹谷トンネルを出ると、また、山々が見えてきた。朝日、月山、葉山とうっすらだが、はっきり見える。せめて午前中だけでもと期待をかける。

五色沼うへの駐車スペースで一般車両は通行止め、15～6台先客あり、見覚えのある赤のハスラーもある。東京方面ナンバー以外は、山形、仙台のみ。

除雪されたアスファルト道を10分弱歩き除雪された雪壁の途中の途切れたところから入る。

15人ほどの団体がいて、山スキー初心者も交えた雪山体験隊みたいだった。

南東尾根取り付きまでは、小休止2回のみで石跳川左岸を辿る。途中まではトレースがあったが、湯殿山南東尾根のブナ林が見えてくるころには、トレースが消えた。突然、右方向からスキーヤー2名が降りてきた。月山スキー場方面から来たみたいだ。

リーダーが南東尾根取付点に赤布があるというので目を凝らして進むが見つからず、地図上の尾根末端から100m弱程上流地点から南東尾根を目指し取り付いた。リーダーはほぼ直登で行くが、自分にはきつく早々にジグザク登行に切り替えた。森林限界を抜けた途端、視界が開け大朝日から以東岳までの大展望、姥の滑降意欲を湧き立てる斜面も良く見えた。

ふと、下方を見ると3人パーティが登ってきており、雨がぱらついてきた。

最後の登りに取り付くが、気温が高いせいか、危惧していたアイスパーンは現れなかった。

その代わり、南風が強く耐風姿勢をとりながら登行した。とその時、単独行者がひょいひょいとワカンで下山してくる（登頂目的は何？）。

山頂も強風でシール外しも難儀するが、登頂記念写真は撮れた。先ほどの3人も登頂、写真撮影を頼まれ、おすまいを尋ねると、地元西川町とのことだった。

一目散に滑り落ちたい心境ではあったが、向かい風でスキーが進まない（初めての経験）。

大回りで豪快にいきたいところだが、風が強く、小雨も降って来たことからリーダーに従い登ってきた斜面を斜滑降で目指す。でも石跳に戻るまでのブナ林は普通に滑れ、気持ちよかった。駐車場に13:00頃に到着。辛うじて本降り雨から逃げきれた山スキー登山となりました。

㊥ 2022・03・29

葉山おんどり尾根

晴れ

大竹（単独

好天の予報に合わせて葉山おんどり尾根へ出かけた。

3月に入っての湯殿、大沢下り、吹越山と全て天気による敗退。

果たして今日は…。

おんどり蕎麦屋の先は未除雪で前回と同じ場所から行動を開始する。

ちなみに[おんどり]は大鳥居の現地の訛り。

しばらく林道を歩いた先の牧草地である三枚平はいつもより雪が多い。

この辺りから足裏に痛みが走り出した。

モルトン病と言う きつい靴を履き続けることによる障害だが、前回の葉山山行でもこの辺りから痛みが出ている。

どうも長い平地歩きになると発症する感じがする。

騙し騙し歩を進め杉の植林帯を過ぎ、短い急登をこなした地点で一本。

誰も居ない静かな世界、今日は葉山独占となるようだ。

行動再開。

ここからの急登の繰り返しは結構きつい。

当然ながら年々きつさの感覚が増していくし、近年その思いはうなぎ上り。

そりゃそうだ。

車で言えば昭和 20 年式大竹車。

価値あるクラシックカー ビンテージ車なら価値が出るんだらうけど、当車は昭和の単なるポンコツ。

耐用年数は越えている。

エンジンも古くなれば当然サビもガタも来る。

76 年間、良くここまで持ったもんだ。

少しでも廃車を遅らせるために、手入れを怠らないようにしなきゃ。

そんな事を頭に浮かべながら「ハーハー ゼイゼイ」。

なんとか休まずにP927着。

毎度ながら今日も南東方面の支尾根に目が行く。

斜度も樹間も適当な非常に魅惑的な尾根が伸びているのだ。

地図を見ると200mほど滑りが楽しめそうだ。

が、これから1050mの展望地点まで往復した後にこの支尾根を上下する体力は今回も無さそう。

そのまま先を目指し、上りきった広い尾根には目的のブナ森の世界が待ち受けていた。

まさに急登をこなした後のご褒美である。

しばらく散策し1050の“展望台”へ到着。

この先の1080ポコより素晴らしく180°の高度感のある大展望が広がる。

蔵王、面白、船形・新庄神室と一人指呼後、滑降態勢に入った。

雪質は全面ザラメで良く滑り快適だが、急斜面は隠れクラックがあったり、ブナ回りの深く大きな根開きがあちこちにあって要注意だ。

単独なので慎重にコースを選びながら滑り降りた。

途中、立派な角を持ったカモシカが目の前から下方に走り下って行った。

お互いにびっくり。

無事急斜面を滑り終えた後は、のんびりと広い牧草地を滑り、途中地図上の山内楯跡を確認して車デポ地へ着いた。

最後まで葉山山頂が顔を見せる無風好天中の山行だった。

いつまで通えることやら…。

記

タイム 我が家 6:30 出発。

大鳥居(8:20～杉植林地(9:10～植林地上の展望箇所休憩(9:35—45)

～p927へ(10:50～c1081着(11:30—11::50)～大鳥居(12:40—東根温泉太田の湯へ直行

㊹葉山 畑コース 2020,4月2日 晴天

大竹(単独)

登山口である畑集落まで除雪は終了しているらしい。

が、予定通り手前のわらび園入口の林道から出発する。

車が1台デポされていたが、スキーのトレースが無く長靴のような足跡だった。

入るなりスノーモービルが6,7台林道わきにデポされていた。

途中適当なところで林道を外して上る。

わらび園上部の尾根に乗り、コルで夏道と合流。

急登をこなし、ブナ林を進むと若いスノボの二人がのんびりと会話を楽しみながら上っている。

会話の相手がいない僕は、軽く挨拶をして先を進んだ。

今回も変わらず足裏の傷みは健在である。

稜線に乗りここですぐ上の小僧森を眺めながらまったりと一本。

4日前のおんどり尾根山行同様今日も青空。

驚いたことに、小僧森の急斜面上部付近で10名を優に超える集団がたむろしていた。

眺めているとトップが奇声を上げながら目の前の沢に突っ込んでいった。

残りがそれに続く。

この状況を見て、僕は即小僧森反対側の沢に変更。

小僧森に上り葉山山頂はあっさり諦め、滑降準備。

滑降開始。

ザラメの雪を十分に堪能しながらも慎重に滑り込んだ。

なにせかなりの急斜面だしザラメの雪は重いし単独だし今のところ誰も滑っていないし。

かなり滑り応え筋肉に應える標高差500mだった。沢幅は広いが、こけたらかなり下まで流されそう。

途中右手からの大きなデブリが沢半分を埋めていた。シールを付けてコルに向かう。

そのままp1021の尾根に向かった。ここからは往路を戻った。



が、途中わらび園の広い斜面に回って最後のターン。後は林道を滑り車デポ地へ戻った。

なお、林道はあちこち縦横に分かれているので要注意である。

その後水を汲もうと、正しい(?)畑の登山口まで車で上ったら、もの凄い車の列。

除雪したての細い雪壁の道に延々と車の駐車。

水汲みを諦めUターンしようにもできる場所がなかなか見当たらなかった。

わらび園林道口までは車のすれ違いは十分だが、そこから上はジャンケンか何かしてどちらかがバックすることになると思う。

明日は日曜日。どうなることやら・・・。

タイム

わらび園口 8:20—夏道合流コル 10:00—稜線 11:00～11:15—小僧森 11:30

滑降開始—滑降終了点 12:00—登り返してコル 12:20—わらび園口 13:00

記 大竹

⑩ 2022/0402 三岩岳 (晴れ)

牧野 他1

8 : 3 0 三岩岳登山口→登山道尾根→1 4 : 0 0 山頂→三ツ岩沢滑降→下大戸沢→1 5 : 4 5 下山

三岩岳登山口には車が4～5台ほど。ほとんどの車は関東ナンバー。

我々は登山口に荷物をデポしたのち、下大戸沢と登山口の間地点に車を置き、空身で登山口まで歩いた。

終始天気恵まれ、快晴無風と静寂の中、絶好の登山日和となった一方、

下からガリガリのアイスバーンで、山頂付近の雪が緩むのを待ちながら、また、牧野がペース上がらずのんびり登った。

山頂直下は雪庇はなく、みごとな大バーン。

が、雪は緩んだものの、カリカリぼこぼこだったり、シャバシャバだったり、となかなか手ごわい雪のため

ゆっくり慎重に下る。それでも滑った後に見上げた三岩岳の斜面は圧巻だった。

下山に使う下大戸沢は、シャバシャバの緩やかな広いバーンとなっており、

ここが一番気持ちよく滑れた。

下大戸沢の渡渉地点は、一番使われている箇所は、我々の直前で崩落しており、少し上流から渡渉して対岸に。

しかし、対岸の際もそろそろ崩落しそうで、そろそろこのエリアのスキーシーズンは終わりそうです。

記 牧野

㊿ 2022・4月3日 岩泉クライミング 晴れ

布施直之・香織夫妻

岩泉クライミングの報告です。

三陸道が開通したおかげで、仙台から4時間（飛ばせば3時間半）。日帰りはきついですが、夜行日帰りなら無理はありません。龍泉洞キャンプ場の広い駐車場で車中泊しました。今日は朝のうちは寒かったですが、日中は暑いくらいで、半袖で登れるくらいでした。岩泉の岩場は、スケールがあって被っていて難しい！このエリアは、まだ登られていない大きい岩場がたくさんあって、将来的に日本を代表する岩場になる可能性があるかと、私は思っています。また行きたいです。

記：布施直之

㊿ 鳥海 千蛇谷 2022/4月3日 晴れ

田中 偶然？ 荻野

田中邦下山しました。

気持ちいい天気誘われて荻野くんも来てました。

たなか（邦

鳥海山に近いので来られるときは連絡ください！

今年のGWは祓川猿倉百宅を予定してます！

今年仙台に戻るので、また一緒に山に行きましょう！

おぎの



③③ 平標山 スキー登山

メンバー 牧野友香, 他 1

7:00 火打峠 (平標登山口) → ヤカイ沢南側尾根 → 10:00 山頂 → 平標沢 → 仙ノ倉沢 (林道) → 13:00 下山

天気予報は快晴。しかし、朝は曇天。そのおかげで雪は最初からゆるんでいて歩きやすい。

ヤカイ沢の沢中は雪崩の巣窟になっていたが、南側の緩い尾根をのんびりのぼって山頂へ。

当初は西ゼンルートで滑降予定だったが、雪の状態が悪く、傾斜の比較的ゆるやかな平標沢に変更。

平標沢は適度な斜度と疎林と、重めの湿雪を楽しめた。

また、下山ルートは途中ところどころの渡渉はまだなんとか渡れたが、

例年だとこの時期のこのルートは雪解けが早く下山には使えなさそうであった。

なお、前日に西ゼンルートを滑走している記録を見つけたが、途中の滝が割れていてかなりスリリングだった模様であった。 記 牧野

③④ 2022/4月9日

鳥海山 湯の台コース

晴れ

スキー登山 (4月会山行の一環)

木村 (単独)

久しぶりに湯の台コースへ行ってきました。前回行った時は高橋さんと2人でした。降雪と強風のなかめずらしくやる気を出した高橋さんと七高山をゲットしました。

今回の湯の台は寝不足でやる気がない、と言いたいところでしたが朝起きて目に入ってきたものは宇宙を感じさせるくらいの青空と真っ白に輝く鳥海山。そして七高山付近にジェット気流みたいなのが見えるのですが。

風はあるけど生ぬるい。風がやむと陽射しが暑いくらい。やる気が出てきたので予定より早めの6時出発。除雪されているのは車止めから1.5キロほど。

8:00 過ぎ滝の小屋着。管理人さんが来ていた。1Fの小上がりからはずしていた畳を敷きに来たそう。



小屋の営業予定は6月の2-3週頃らしい。イヌワシが生息しているので除雪車は入らないとのこと。自然に雪が溶けるのを待ってからの営業だそうです。

無雪期は小屋まで徒歩20分。プチ登山からの旅行村キャンプなんかやれば子供も喜びそう。とか思いながら小屋を出てひたすら登るが行動が単調なのと寝不足で眠くなる。1900付近にスキーをデポしアイゼンに履き替える。

12:15分、伏拝岳着、ここから七高山までは850m。風が強くなってくる。御室の階段を掃除しながら登る。七高山まで150m、立ってられな位くらい風が強くなる。10mほど下降し風が弱まったところで引き返した。山頂は踏めなかったけど久々に強風を楽しめたので満足しました。

下りはあっという間で攣りそうな脚を休ませながらそれでも14:30着。 記：木村

㊥ 4月17日(日) 鳥海山 北斜面(赤川ルンゼ) 晴れ

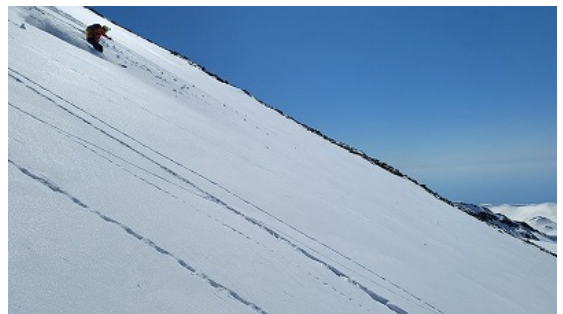
L 田中 荻野

快晴、無風、ザラメに新雪、そして日曜日という最高の条件に恵まれ、無事、北斜面滑降を達成できました。

荻野くんという強力なパートナーがいたおかげです。

嬉しかったことがもう一つ、2週間前になくしたスキーア

イゼンを新山山頂の雪の中から発見！ 記 田中



㊦ 4月会山行 鶴間池周辺 山スキー L 西田 鏡 伊藤 坂本 後藤 塚本 大竹

● 1日目

4/9(土) 6:00 もしもしP集合 = 48号 = 13号 = 47号 = 345号

晴れ = 09:40 大台野 - 林道 - 荒木川付近はピンカーブ

から鶴間池小屋 11:00 (泊荷物デポ) コース下見

前回 鶴間池に来てから 再訪問するまでに随分と時がたってしまった。

その間自分も世の中も 大分変化があったのに ここは変わらずの佇まい。

その変化のなさが、ここの世界観なのだろう。

偵察山行でルートと小屋の状況は把握できている。仙台を定刻に出て48号13号 47号と進み345号に出て風車が見えてくると 真っ白な鳥海が近づいてくる。10時前には車止めの駐車違反にならないエリアに車を止め泊装備で出発。(木村君の車も 安全地帯にあるようで 先行しているようだ)

高度を上げるにつれ風がでてくるが、気温が高く寒さを感じない。

2時間弱で荒木川に到着し次のヘアピンカーブまで進んで シールを外す。

小屋まで標高差100m程度だが急なトラバーをこなさないと湖畔に行けない

ところが冬に人が少ない原因だろう。スノーモービルも無理だと思う。



小屋開け(2階の窓)をして、しばしのんびりしてから小屋周りを散策したり 明日のコースの下見をしたりして時間を過ごす。

沢を1100mまで行ったメンバーが遠くに見える。大斜面がすこぶる気持ちよさそうだ。

日がかげるとつれ気温が低下し、池から調達した水で料理(キャベツ鍋)を始めると小屋内の温度は上がり寒さを感じることなく一晩過ごせる。



・2日目

4/10(日) 鶴間池小屋 8:00 - 11:00 標高1600m -12:00小カール 快晴強風 -14:00林道=温泉(ゆりんこ) 経由仙台

小屋内の温度が上がったせいか、住み着いているひめねずみが2階を走り回り耳元にくると耳障りだ。

7人でちょうど寝られるが、これ以上多くなると1階も利用することになり2階は、冬山のそれです。

朝食のパンとコーヒーをいただいて 標高1600mを目指す

メンバーは二手に分かれ

1600mを目指すグループ 鏡 後藤 伊藤 西田

小カールで遊ぶグループ 大竹・塚本 坂本

小カールで9:00頃に分かれての行動になる

小カールから左岸の尾根に乗るのがやっかいで、標高を上げつつ雪を追いかけ最後5mほどヤブをこいで尾根に乗る。

ここからは白い斜面を、1600目指し高度を上げていく。鳥海山の外輪が見えてくると風が徐々に強くなるが、昨日同様それほど寒さは感じない。

無木立の真っ白斜面はさらに風の勢いが増してくる。1600m付近でさらに200mほど上に田中(邦)さんの姿らしきものが確認できる。

我々はここまでで登高は終了し滑降準備にはいる。

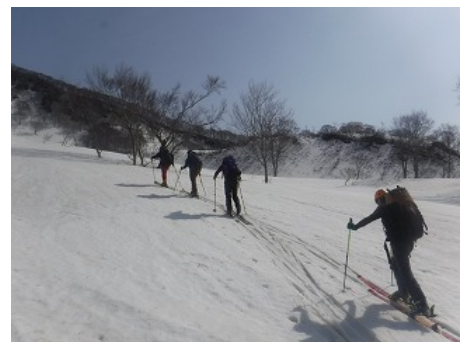
無線で下降の連絡をして、スキー靴の踵を固定するが、伊藤さんのビンディングのブレーキ部分の破損で踵固定に手こずるが、力業でなんと固定して滑りに入る。

大斜面はすこぶる快適で、各自フリーラン 小カールに直接入る場所を探しつつ降りていくも、雪でつながっていることを確認できず。大分下がってからヤブっぽいところに入る。階段を作りながらヤブを避けての下りはつながっているものの不快 さらに下まで降りた鏡さんと後藤くんの方が突破は早い。

小カールに出てここで遊んでいた3人と合流し、雪のテーブルと椅子でゆっくりティータイムをとる。

斜面を後にして小屋に戻ってからは、可能な限り労力少なく車道に出て鳥海に別れをつける。

次に来ることはあるだろうか？ もういちど別シーズンに、スキーで小屋だけでも訪れてみたい  
そう思う



メンバー 坂本育子、西田猛和、後藤遼太、他1

## 行動

2022/04/16/6:15 後藤宅 = 高速 = 白河 = 会津高原尾瀬口 9:40 松木さんピックアップ

(小豆温泉手前)保太橋 11:15 窓明山登山口から入山 - 巽沢山 13:00 - 家向山分岐 15:00

少し戻ってブナの下にテン場設営 15:30

2022/04/17/7:15 出発 - 家向山分岐 - 西田・後藤山スキー組は窓明山～三岩岳 11:00 経由

で周遊ルート（登山道沿い） - 登山口 12:45 到着

坂本・松木は 1600m 9:00 - テント撤収後下山 11:00 - 巽沢山 - 13:30 登山口到着

## 感想

満月に吠えたい！坂本。

松木さんの好きな南会津山域に西田と、後藤君の強力サポーターが付いてくれた。

小雨と急登と低温と風→その先にあったものは・・・

東向きに吟味して選んだブナ下のテン場は月とたき火の絶景ビューポイント

満月にフクロウの鳴き声、トウが出た私たちの遠吠え。月に照らされるブナの影。

良い夜だった。

朝、テントから顔を出すと桜色の空、雪はカリカリ、西には、三岩岳と窓明山のスカイ

ラインに沈む前の黄色い月がくっきり見ることが出来た。

予定より遅めの出発だが雪は固い。家向分岐からの下りから山スキーの2人とは別行動

となる。

窓明山 9:00→三岩避難小屋はまだ雪の中とか。前夜の新雪が良い感じだったらしい。

この後は、トランシーバが役にたった。

早朝立ちの登山者が何組か追い越していく。つぼ足の私たちは 1600m 付近でのんびり松

木さんと山談義。

ここで戻る事とした。家向山への分岐点までの急登で苦勞していると、藪の中から熊の

警戒音

そうなのだ。ここは南会津・熊のテリトリーなのだ。

大きな声でお話しながら登りきり、テント撤収後下山。

雪は緩み歩きやすくなった。登山者のスキー跡や足跡に惑わされて何度か軌道修正しながら 13:30

昨日は1台だったのに満杯になっていた駐車場に到着。

後藤君は南会津が好きになってくれたかしら？と松木さん。大丈夫のようですよ。

西田と坂本はいつでも行きますよ。

私の今回の目的は達成できた。

㊸ 山域 会津駒ヶ岳 日程 4月17日(日)

メンバー 牧野、他1

行動 仙台=7:40 檜枝岐(駒ヶ岳登山口)→12:00 山頂→稜線周辺滑走→15:00 山頂下山滑走→15:40→  
登山口下山

当日は、天気もよく登山者、スキーヤーなど多くの人達がきており、登山口駐車場もかなり混雑していました。雪の状態もよく、山頂から登山口まで雪でつながっており、最初から最後までスキーを脱ぐことなく降りれました。本部ご対応ありがとうございました。 記 牧野

㊹ 神室役内沢滑降記録

2022年4月2日～3日 メンバー：L.鏡、後藤

コース・タイム：

4/2

9:20 108号線かもしか橋駐車帯(出発) 10:37 稜線C840地点 11:40 役内沢林道分岐(テント設営)

12:40 テント出発 14:32 役内沢C755付近(引き返す) 15:30 テント帰着

4/3

7:20 テント出発 8:56 役内沢C755付近 9:37 最奥の二股 10:50 神室山稜線 10:56 神室山頂上

11:18 頂上北側コル（滑降開始） 11:31 C755付近 12:28 テント帰着（撤収）

13:14 天場出発 14:52 稜線C840地点 15:30 駐車帯帰着

新庄神室にはいろんな思い出がある。冬合宿の神室縦走はちょうど1999年から2000年の正月だった。空蔵から縦走の佐野さん、今出さん、岸さんらを年末に送って行った後、自分は年明けとともに畠山君、太田聡君と軍沢岳から神室本峰へのルートに入った。自衛官の畠山君はその時2000年問題絡みで朝鮮半島有事が噂されており、年明けの瞬間まで待機業務でそれが明けての参加だった。好天で順調に軍沢岳を越えた稜線上の天場からは、神室本峰の東面がまさに白い壁として迫っていた。この時は翌日ホワイトアウトの中、自分が雪庇から落ちたり、別の尾根に入り込んで下降したりと、いろいろ苦労しながらも、前神室の天場でサポート隊と無事合流したのだった。

その前からだと思うが、神室山東面役内佐波はずっと僕の頭の中にあった。神室連峰の沢の中でここだけは稜線から中流部まで開放的に大きく開けた溪相で、沢登りとしての価値は薄そうだが、スキー滑降には最適な地形と思われた。言うなれば神室の石転び沢ではなかろうか。



そこで、2000年の5月には大竹さんを誘って、残雪の役内沢を偵察に入った。この時はスキーは持たずにピッケル・アイゼンでの雪溪登りだったが、雪溪の状態や傾斜を見てもスキー滑降の可能性は確認できた。下流部で一カ所渡渉があり、朝にはごく浅かったのが、帰りは雪解けのためか水位が上がって緊張したのを覚えている。

翌冬あたりにはスキー滑降に挑戦したいところだったが、その後転勤で仙台を離れたこともあって機会を得なかった。また役内沢に冬に入るとなれば、役内の集落から沢沿いの林道を延々歩くことになるが、これもあまり有り難くないアプローチだった。地図を眺めて、108号線のかもしか橋付近から山越えて役内沢に降り立つ方が、距離的にはずっと近いと考え、その偵察に入ったのが2009年の3月だった。この時は目的の尾根から稜線に至り、そこから尾根通しに軍沢岳まで行って、軍沢岳の尾根コースを滑って帰った。

アプローチの偵察まではしたものの、役内沢滑降の機会はその後もなかなか来なかった。天候や雪崩

の危険を考えると厳冬期の計画は困難と思われ、春の雪が落ち着いた時にとすると、これもまた週末の天気をつかむのはなかなか難しいものである。何度かは計画しようとして諦めたりしているうちに、最初の思いつきから20年以上が過ぎてしまっていた。

山は逃げないとは言うものの、人間の方には年齢というものがある、と誰かが言っていた。役内沢を滑るにはもうそろそろ後がないと思い始めて、ともかく行ってみないと、と計画を出したところ後藤君が手を挙げてくれた。一度3月に計画したものの地震もあり天気も思わしくなく取りやめたが、2回目の計画では天気予報も土日どもの好天、今度こそという気になった。

前置きが長くなったが、20年分の前置きなのでご容赦願いたい。予報通りの晴天に恵まれ順調に鬼首トンネルを越えると、かもしか橋近くの駐車帯に着いた。軍沢岳のコースは結構人気の山スキーコース

となっているらしく、駐車場に2台停まっている無人の車も山屋さんのものと推測された。準備をしていると後藤君がテント一式をさっさとザックに入れてくれた。それでは装備配分が偏りすぎる、というのが一瞬頭をよぎったが、体力差を冷静に判断してありがたく持ってもらった。軍沢岳には宮城方向に少し戻って橋を渡ったところから尾根



に取り付くのだが、我々は逆方向、秋田方向に少し下り、橋を渡る手前から山に入る。驚いたことにこの辺りから尾根に向かってオレンジ色の赤布がべた打ちしてある。あまりに間隔が短いので山屋さんのものか判断しかねたが、後日ネットで見てみると、ここから尾根通しに神室山頂を往復したり、またこの辺の斜面を滑り込んだりしている人もずいぶんいるようであった。赤布は尾根沿いにC1035に向かっているようだったが、我々は右手に向かい小さな沢を越えて右側の尾根を目指す。尾根に乗るまでがかなり急な斜面だが、クトーも装着してなんとかスキーのまま登り切れた。尾根上もやや急な登りが続くが、ブナの丸い尾根で問題はない。アイゼンの先行トレースがここにも続いていた。1時間とちょっとでC840のコブに到着、ここが我々の乗越し地点となる。ブナの大木の生える小広いところだが、ここで西側に神室東面の真っ白な屏風の壁が木の間越しに目に入ってくる。山麓からは見えない眺めだが、一見の価値があるものだ。

役内沢への下りルートは北側C836ピークから西に出る支尾根に取る。C836の南側をトラバースして支尾根に乗ったところでシールを外す。すぐの分岐で北西に出る尾根に入りかけたが、すぐに軌道修正して一本隣の尾根に戻ると、ヤブがうるさくなってくる。740mあたりで尾根を外し、南側の杉の植林の急斜面を斜滑降でしのぎ下って小沢から下の林道に出た。この辺り重荷での修行系スキーでさすがの後藤君も困惑のようだった。

林道を一旦下流に向かうとすぐに役内沢の二股、橋の地点に着いた。天場ははっきりとは決めていなかったのだが、水が取れるといいねということで見回すと、この辺り広い河原に流れがいくつか別れていて、難なく下りて水も汲める。無理に上までテントを上げる必要は全くないので、昼前だがここに設営とする。ちょうど、山の神の祠でもありそうな杉の木が二本立っていて、その前にテントを立てた。

天場からは山頂方向はあまり見通せない。しばしゆっくりした後、上部ルートの偵察に向かう。最初は林道沿いなので安心していただけだったが、すぐ先で沢を渡る地点が橋ではなく堰堤状だった。幅5メートルぐらいはしっかり水が流れている。しばらく思案するが、渡らずに右岸沿いに行くのも厳しそうなので、意を決してブーツのまま渡ってみた。一番深いところでブーツぐらいの水深らしく、しっかり中まで水が入ってきた。渡り切ってから対岸でブーツを脱いで靴下を絞る。後藤君はこれを見て裸足になって渡ってきたが、これはこれで厳しかったようだ。

靴下は湿っぽくなったが、この後の林道は問題なく、C537の堰堤を過ぎて地図通りの林道終点に進む。しかしここで沢が狭まり流れに行く手を遮られる（C604手前）。また渡渉かとうんざりするが、沢登りのへつりのようにして沢身に下りると、一回目よりはずっと流れも小さく飛び石を少し工事して渡った。今度は「あまり」水も入らなかったようだ。

その後は広い沢底の樹林の中を進んで行く。650mの二股を過ぎると、沢底がデブリで埋まっている。デブリの通過自体は気持ちのいいものではないが、今日落ちたものではないだろうと自分に言い聞かせて進む。この上で沢は大きく開け、山頂方向の斜面が展望される。1300m台の山とは思えないアルパインな景観が広がっている。谷が折れ曲がっていて、山頂の最後の斜面は見通せないが、それは明日登ってみて考えよう。C755の上、760m地点で偵察は終了。帰り道は渡渉地点も勝手がわかり、スムーズに天場に戻った。



雪の上ながら沢のせせらぎが聞こえる、なんともどかな天場である。まだ日が高く、しばらくテントの前で靴を脱いで靴下を乾かしながら飲み始める。日が傾いてきて肌寒くなったのでテントに入る。コロナ禍の影響でテントで飲む酒も久しぶりだが、格別の味だった。

起床時には既に明るくなっていた。といってもあせることはない。山頂から滑降する時点で雪がゆるんでいる方がいいのだ。役内沢は東面に向かって開けた沢なので、朝から日射を受け雪は早めに緩んでくれるはずだ。朝イチのトイレに行くと神室の山頂稜線が谷奥で赤く染まっていた。



予定の7時をやや回って出発。昨日の偵察があるので、渡渉も含めてサクサクと進み、昨日の760m地点へ。ちなみに今日は、靴下の上にコンビニ袋を履いてブーツを履くという新たな作戦を試したが、昨日から濡れている靴下はやっぱりまた濡れた気がする。さてここからが未知のルート。いや、2000年に一度偵察しているはずだが、22年前のことを明確に覚えていないからと言って、まだ惚けた云々とは言われまい。760mの上から徐々に谷が狭まり傾斜も徐々に立ってくる。上方、左岸側壁の南に向いた斜面が2箇所三角形に雪が落ちて黒くなっているのが見える。その下はまたデブリが予想されたが、行ってみるとそれほど大きなものではなく、沢全体を埋めるものではなかった。最奥の二股まで行って上部斜面を展望すると、左側の頂上に直接詰める谷は狭く傾斜も急で上部にクラックが目立つ。比較的穏当な右側を選択し、急なところを一段上がると大斜面が広がった。

大斜面の登りから後藤君が先に立って登って行く。傾斜は徐々に急になって行くが、表面は比較的新しく積もった雪が緩んで、シールで十分に登って行ける。後藤君はこの斜面でも「すたすたと」登って行くが、こちらは息が上がり徐々に間隔が広がる。最後の詰めでシール登高もやや限界に近づき、安全のためアイゼンに履き替える。氷帽状に雪庇の出たところを迂回して、山頂北側の小鞍部で稜線に出た。先に出た後藤君の声で前方を見ると、真っ白な鳥海の大三角形が意外な近さに望まれた。雪庇の上に先

行者のトレースが残る稜線を歩いて神室山頂へ。アイゼンの足跡に沿って小さな動物の足跡が残っているのは、犬を連れて登った人がいるのだろうか。頂上ではまさに360度の大展望が広がっていた。

コルまで戻って滑降の準備をする。入り口からは傾斜が急でこれから下りる斜面は見えないが、登ってきたところなので雪質や斜度の不安はあまり感じずに済む。最初にすぐ下の段になっているところまでゆっくり下りて様子を見る。ここから大斜面の滑降へ。35度ぐらいはありそうだが、雪は適度に柔らかく、斜面の幅が広いので大きなターンでしっかり回し込んでスピードを押しえながら慎重に滑る。数ターン毎に停まって後ろを振り返ると、後藤君も危なげなく下りて来た。徐々に調子が出てきて、気持ちよく大斜面に2本のシュプールを刻むことが出来た。喉状に狭まったところで小デブリの横を通過して、下の谷が広がるところまで休まずに下る。760mまで下りて一本立て、滑ってきた斜面を振り返った。最奥は谷の屈曲で見通せないが、役内沢滑降のハイライトは望みうる最高のコンディションだったと思われた。

この下は傾斜も緩くなるが、まだゲレンデのような広い斜面が続いている。徐々に雪も重くなって来るが、苦勞する程ではなく、デブリ通過と林道滑降、すっかり慣れてしまった渡渉2回で天場に帰着した。

テントの前でお湯をわかしてコーヒーでゆっくりする。後は撤収して帰るだけ、なのだが、帰り路にまだ一仕事、あの山越えをこなさなければというのがやや憂鬱だ。腹を括って撤収、パッキングしてシールを貼り直す。

昨日のトレース通りに林道から枝沢に入り、植林地の急斜面でスキーを背負ってツボ足で直登する。標高差100メートル程だが、ここまでの疲労が蓄積ししんどい登りだった。もう少しで尾根というところでジグザグの作業道にぶつかり、この道を利用すればもう少し楽をできたかもしれない。尾根に出てスキーを履いてからも、細い尾根で雪が切れていたりとなかなか楽にならず、結局この登り返しには2時間近くを要した。たどり着いたC840で、逆光となった神室東面を最後の見納めと眺めるのだった。

最後の尾根の下りも荷物の重さもあって気が抜けない。尾根を外して急斜面を谷に降りるところは腐った雪に雪割れもあって一苦勞だった。橋のたもとで柵を乗り越え、走る過ぎる車に注意しながら国道を歩く。場違いなスキーヤーを走り去る人達はどう見ていたのだろうか。駐車帯には自分の車一台だけ

がぼつんと残っていた。今日はおよそ8時間の行動だが、時間以上の疲労と充実感を感じていた。

川渡温泉藤島旅館のレトロ感たっぷりの大浴場に身を沈めて、好天に恵まれた二日間を反芻する。地図を眺めて自分なりのルートを引き、そして実際に滑ってみる。それが、予想に反して思った程快適に滑れないことも多いが、それはそれで山スキーの楽しみであろう。期待以上に良いルートを探し当てられたとしたら、この上ない喜びとなる。それが20年温めたルートとなればなおさらである。強力なパートナーとなってくれた後藤君に感謝。

④ 2022・04・19 晴

志津の先から姥ヶ岳へ LL大竹 塚本

左腰股関節付近にかなりの違和感(痛み)があり、山に入ったらどうなるかな？

と急遽姥ヶ岳の癒し系ルートを辿ってみることにした。

志津の先のいつもの空き地に車を止めむつむつと準備をしていると、なんとたかねさんが

車からニコニコと顔を出している。

「月山にリフトの回数券を買いがてら滑り、ついでにスキー場回りを散策しようと思って・・・」

「一緒に行ってもいいですか？」

無論大歓迎で二人で出発。

雪はザラメで変わらぬブナ森の景観に癒されながら登る。

最後の急登上がり、軌道修正してリフト乗り場へ着く。1回券600円。客少なし(がらがら)

リフトから見るスキー場は、想像以上の無数のクレバスが僕の額の皺のように何段にもわたって斜面を横切っていた。

沢すじも尾根側も・・・所選ばずである。

50年以上ここに通っているが、初めての光景で唾然とした。

先日クレバスへの落下事故で亡くなられた従業員の方に思いを馳せながら



写真を撮らせてもらった。

リフトトップから姥山頂に上がり、俯瞰した湯殿山も山頂稜線から石跳川に向かって

雪面があちこちでずり落ち滑走不可。

今年は大雪と言うが月山周りは思ったより雪は多くは無く

山頂付近や四ツ谷川源頭兩岸は地肌がかなり露出している。

気温が高い日が続いて雪融けが早いのか？

山頂から大きなクレバスの多いリフト側を避け尾根筋を滑る。

なだらかな尾根筋にも幅50~100cmほどのクレバスが少なからず横切っており、注意しながら滑った。

樹林帯はいつもの通り。

クラックも割れもないが縦溝が出始め波打っている。

それでも疎林の中をクラックの心配なしに滑るのはやはり快適だった。

\* 斜面の状況写真を添付します。

腕もカメラもイマイチなので現状把握が難しいかもしれませんが、かなりの幅のクレバスが

リフト上から大雑把に数えただけで15本を優に越していました。

確認はしていませんが姥から石跳へのルンゼ滑降も避けた方が良いと思います。

記 大竹

④ 月山から北月山荘への縦滑走1 晴 L 20220434 晴れ

メンバー、L 毛利正、大竹牧夫、塚本たかね、他1

行動：5:15 道の駅にしかわ=6:21 北月山荘(車デポ) 6:58 =8:47 姥沢駐車場-9:05 リフト下=9:34

リフト上-10:37 牛首-12:12 月山-13:16 弥陀ヶ原小屋 13:48-14:13 c1208 -15:11 c981 -

16:00 三角山(登り返し)-17:05 北月山荘=18:50 姥沢

駐車場=19:01 志津ゲート

コメント：風は予報より弱かった。リフト上からの登りで

はぐれ牛首で合流できたが、教訓としては、出だしは人が

多いのでパーティー一体で行動することが肝要。





\*ハイ松の花粉が犯人か？(大竹)

以下、ベタ物質について

1 ゆうゆう館 佐藤店長に電話での話

「石油とガソリンを 7:3 (だった?) で混ぜて拭けば取れる」

「行動中小瓶に入れてその都度吹けば良い」(安全??)

2 ネットで調べた結果

「この汚れについて某 SNS で話題になっていました。ワックスメーカーの方によると、雪氷藻類という残雪融解時に活動する微生物が花粉分泌物を分解し、フミン酸等の有機堆積物となり、それがこの汚れの原因と考えられるとのこと。たいていは、酸素原子を含まない炭素と水素からなる有機物で水酸基を持たないため、水で洗い流すことはできないそうです。したがって家庭用洗剤やスプレークリーナーで落とすのが正解ですね。」(ネットでの話)

参考：フミン酸 (ウィキペディア)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%83%9F%E3%83%B3%E9%85%B8>

記 大竹

④蔵王熊野岳 4月24日 晴れ

L鏡 阿部 他2名

L阿部さん他2名と蔵王、熊野岳に行ってきました。稜線上はさすがにだいぶ雪が切れていて、何度かスキーを脱ぎましたが、熊野東面の丸山沢左岸大斜面はたっぷり雪があり、2本滑ってきました。ただ斜面のクラックは例年より多いように感じました。丸山沢は大きなクレバスが入り終了と思われませんが、雪面に滑った跡があり、この日も入ってる人がいたそうです。帰り際にヘリがずっと上空を飛んでいましたが、御釜に人が落ちた件だったようです。

記 鏡

⑤ 山寺 クライミング 2022 4月29日 雨

布施直、布施香

昨日4/29、山寺へ。午後から雨予報だったので、13時までクライミングをして、14時に駐車場でちょうど雨が降ってきました。ギリギリセーフでした。

今日4/30も山寺へ。昨夜は雪の予報もでてましたが、チラチラ降ったくらいなのでは？と高を括っていたら、関山トンネルを過ぎると、すごい積雪でびっくり！山寺の駐車場でも10センチくらい積もっている。とりあえず行ってみようと歩き始めましたが、足元は雪でズルズル、木の枝からの落雪で全身びしょ濡れ。岩場もほとんどのエリアが濡れていて、風もあって寒いし、モチはだだ下がり。唯一濡れていなかった仙人堂で1本登って、下山決定。こんなこともあるんだな〜と、予想外の敗退でした。

記 布施

④⑥ 乗鞍岳日程：4月30日（土） 日帰り

メンバー：牧野，他1

形態：山スキー

行程：9:30 三ノ滝 → 14:00 山頂 → 滑走 → 15:00 三ノ滝（下山）

終日快晴の中、乗鞍岳山頂から滑ってくることができました。当初、乗鞍観光センターからバスの乗車を考えていましたが、雪は三ノ滝辺りまでしかないという現地情報や、当日始発のバスが運休していたりと、当初の予定を変更して、三ノ滝から上部のゲレンデ内を少しかつぎシール&クトーで山頂まで行ってきました。三ノ滝の駐車場はほぼ満車で、山域全体も終始人気のBCエリアの活気ある賑わいでした。

日差しがあったわりに気温はそこまであがらず、山頂から少しカリカリではありましたが、駐車場まで高低差約1000mを気持ちよく滑り降りてくることができました。本部ご対応ありがとうございました。

記 牧野

④⑦ 2022.4.30 7:50~15.39

月山南西斜面、姥ヶ岳南東斜面 形態：山スキー 天候：快晴 メンバー：伊藤 信弘

コースタイム：

姥沢駐車場 S7:50~リフト下駅 S8:08~リフト上駅 S8:27~柴灯森 S9:15

～月山山頂 A10：52～胎内岩 S11:10～大休止～四ツ谷川左岸尾根右側雪渓 S12：20

～雪渓末端 A13：25～姥が岳山頂 A14：39 S15：06 ～姥沢駐車場 A15:39

報告内容：

笹谷トンネルに近づくと除雪車が出動、積雪 10 センチ弱ぐらい。嫌な予感がする。

弓張平に入ると冬に逆戻りの様相、満開の山桜を覆うように雪が乗っかっていた。

姥沢駐車場まではシャーベット状の雪道ではあったが緊張する（タイヤ交換してなくてよかった）。駐車場は先客の車両が約 25 台ほど、関西圏ナンバーもちらほら。

当初リフト不使用予定であったが、体力温存のため（言い訳づくり？）利用した。

上駅に着くと月山方面の方は 1 人のみで、すでに 100m ほど先行している。そのトレ

ースを拝借しながら進む。山頂直下（牛首？）ではトレースなく、スキーを外し、

腰ほどのラッセル。想定外で大変疲れた（リフト利用は正解！）。自分の付けた

トレースを後続の各パーティーがアリの行列のように次々と辿ってくる。50 人程はいる。

鳥居近辺は 50 センチほどの積雪。でも快晴無風、朝日連峰は全山見える。

胎内岩から清川行人小屋へ向かう計画であったが、帰りの所要時間と自分の体力から

逆算し、予定変更。四ツ谷川源頭左岸にダイレクトに入ることとする（計画では行人小屋

から左上トラバースで、上記左岸に行く予定であったが、上から覗くとハイマツ等が

いたるところにあり、トラバース自体困難と悟ったことも要因）。

左岸右手の雪渓は姥沢駐車場より見ると急斜面に見えるが、その通りであった。ところ

どころ小クレバスがあり、新雪で隠れている箇所もある。縦のクレバス、落とし穴みたいな

円形クレバスも。そろり、そろりと滑り、2 ターンが精いっぱい。とその時、下からの

登行者発見。目印ができたので一安心。何とか四ツ谷川に降りる。

その後、姥山頂までトレースし南東斜面滑降したが、出だしにはまたも横長のクレバス

が！雪質もストップモナカで滑らない、最悪。ゲレンデ沢コースは雪がならされているので

スイスイ行く、山スキーの難さを改めて実感。それにしても、単独は精神的に緊張の連続

でした。イレギュラー対応時は言うまでもなしです。今回の経験を今後の糧とします。



次回は大雪城経由で行人小屋を目指したいと思います。

鏡さん、本部ありがとうございました。田中さん、情報提供ありがとうございました。

塚本さん、行人小屋には近いうちに行きますので、少々お待ちください。以上。

記 伊藤

④⑧ 2022 5月3～5日 山寺 クライミング 布施×2 他1

3連休、山寺に通ってました。

一昨日5/3は寒過ぎ、昨日は快適、今日は暑過ぎでした。

山の天気はわかりません。

GW だからか？全国からクライマーが来ていて、山寺は大賑わいでした。

皆さんが山寺の岩場を面白いと言ってくれると、常連としては嬉しい限りです。

全国の皆さんと話をしていると、共通の知り合いがいたり、この世界は狭いですね。

3連登で、さすがに体はボロボロでした。

2日レストして、5/8日曜、山寺に行く予定です。記 布施

④⑨ 山域：月山南斜面、清川行人小屋往復 日時：2022.5.7（土） 8：15～16：40 天候：快晴

メンバー：伊藤 信弘

コースタイム（ルート概要）：

姥沢駐車場 S8：15～リフト下駅 S8:30～リフト上駅 S8：45～月山山頂 S10：35

～行人小屋 A11:25～大休止 S12：45～月山山頂 A15：00～15：45 東面滑降（1800 まで）

～月山山頂 S15：45～リフト上駅 S16：26～姥沢駐車場 A16：40

報告内容：

一週間前は山頂直下腰ほどのラッセルだったが、今日は夏道が見えている。ハイマツ

島の点在も増加。雪解けのペースは速いようだ。

山頂を目指すパーティは6~7組25人程か。スキー登山以外の人も半分ぐらいいる。山頂からは東面に30mぐらい降り、回り込んで南面の大雪城上部へ。

広大な一枚バーンで、正面に村山葉山、右手は朝日連峰を見ながらのロングターンと行きたいところだが、ストップ雪で加速できない。ショートタウンでもスピードが出ない（せっかくの好天でこのロケーションなのに残念）。行く手に先行者1人が見え、雪田の途中、ハイマツ島で休憩している。

行人小屋が見えたあたりで5人パーティと遭遇。昨日、小屋泊りとのこと。きのうもストップ雪だったみたい。最後の本沢源頭に向かう斜面はなかなか良かった。小屋に向かって右に行くほど傾斜が増えてくる（最右端は傾斜50~60°ぐらい?）。

小屋周りは除雪されていて、カタクリの群落が咲いていた。裏手には豊富な水場、泊まりたい気分になる。小屋から大雪城方面を見ると右方にも広大なバーンが見え、滑りごたえがありそうだ。それにしても、小さなものは若干あるものの月山スキー場みたいな大きなクレバスは見当たらない。

1時間超の大休止のあと復路を辿るが、ここからが長かった（月山山頂まで2時間15分だが、倍ぐらいの時間に感じた：蟻んこ一匹が広大な砂糖の山を登っている状況）。

山頂到着後、東面偵察で1400まで滑る予定であったが、15:00時を過ぎたので、軟弱にも1800m程で引き返す。と、あんなにいた登山者は私とワカンの方の2人だけ。そそくさにリフト駅目指し滑り落ちる（ものの、山頂より雪上までの夏道の下りがきつかった）。記 伊藤

追伸

報告書にも書きましたが、ひどいクレバスはありませんでした。が、

大雪城中間部ハイマツ帯の谷側に2か所小規模な雪の割れ目ができていました。行人小屋を上方からみた右側のハイマツ帯が要注意です。

とにかく、ハイマツ、灌木の谷側注意です（滑る分には、ほぼ安全ということですが）。

本沢源頭（小屋の向かい側）には3~4m高の雪面末端が切り立っていました。崩壊したらやばいので遠巻きに通行してください。

小屋近くの雪面が狭まる、小屋から見た右手下部にも2か所ほど亀裂がありました（田中さんに前の山行時に表示してもらった箇所だと思います）。

雪解けが思いのほか早いです。今後また状況は変化するので、慎重な滑降が求められると思います。

onedrive にアップするので、参考にしてください。 記 伊藤

⑤⑩ 山寺 クライミング 5月連休中 布施夫妻

> 布施です。GW10日間のうち6日、山寺に通いました。

> 天気が不安定で、暑かったり、寒かったり、雪が降ったりと、いいコンディションの日が少なかったですが、通っただけあって成果もできました。最終日の5/8、かおりは、昨年からトライしているマインドゲーム12bをRP（完登）しました。おめでとうございます！私も、トライしているジェード13aのムーブができるようになりましたが、RPはまだ遠いです。秋にRPできるように、頑張ります。

> いい写真がなかったのですが、雪の山寺とジェードにトライする幡野さんの写真をアップしました。



記 直之

こんにちは。かおりです。

わたしからも報告です。

YMCAのみなさんの計画や報告書を見ながら自然の中で一緒に参考に行けたらとても楽しいだろうなあと思いながら、やっぱりクライミングが好きすぎて、なかなか山行に参加できていません。そんな中で今回の目標にしてたルートのレッドポイントができて最高グレードが更新でき本当に嬉しかったです。

今年は2月に大事にしていた愛犬がなくなるという布施家最大のピンチを迎えたのですが、まだクライ

ミングがあるのでふたりで前を向いてやっていけそうです。ノークライミングノーライフな私たち（わたし？）ですが、引き続きよろしく申し上げます m(\_ \_)m 記 かおり

\*後日写真を依頼した際に添付された報告です。上記とダブル箇所があるかもしれませんが、布施夫妻の岩に対する情熱が見られ、あえて掲載します。（編集部）

## GW の山寺クライミングの報告

2022 年 4 月 29, 30 日, 5 月 3, 4, 5, 8 日 山寺黒岩

布施直之、布施香織

GW 期間の 10 日間のうち 6 日、山寺に通いました。天気が不安定で、苦勞しました。

4 / 29 快適でしたが、午後から雨予報だったので、13 時で終了。

4 / 30 前夜の雪で、駐車場でも 10 センチくらい積もっている！とりあえず行ってみましたが、木の枝からの落雪で全身びしょ濡れ。岩も濡れていて敗退。

5 / 3 風も強く、寒過ぎで厳しかった。

5 / 4 快適に登れました。5 / 5 暑過ぎで昼過ぎに終了。5 / 8 快適に登れました。

山の天気はわかりません。しかし、通っただけあって成果もできました。最終日、かおりは、昨年からトライしているマインドゲーム 12b を RP（完登）しました。おめでとうございます！私も、トライしているジェード 13a のムーブができるようになりましたが、RP はまだ遠いです。秋に RP できるように、頑張ります。GW 期間中、全国からクライマーが来ていて、山寺は大賑わいでした。皆さんが山寺の岩場を面白いと言ってくれれば、常連としては嬉しい限りです。 布施直之

⑤1 2022/05/05(木) 山域：岩木山～嶽温泉 メンバー：西田猛和、坂本育子

形態：登山道、山スキー

行動：2022/05/05 嶽温泉バス亭 10:20＝バスで八合目へ 1000 円（スキーデポ）リフト 700 円

兼用靴でガシャガシャ雪の無い岩の登山道を岩木山頂上へ 12:30→下りは、歩いて下る。

リフト下 14:00－嶽温泉コース－16:00 嶽温泉

感想：

GWキャンプ 2022：今年は岩木山西側、百沢スキー場下の桜林公園キャンプサイト

4 泊もしてしまった。

桜とカタクリの群生と満開のリンゴの花と岩木山、星と強風と岩木神社を堪能してきました。

その中で晴れの特異日 5/5 に岩木山に登りました。

嶽温泉バス亭に車デポし、バスで 8 合目へ。前回来たときよりも雪がない。

岩木山頂上へはスキーをリフト脇にデポして、初めてのリフト使用。

あっという間に 8 合目到着、その後兼用靴で岩だらけの登山道登り。

12 時過ぎ強風の岩木山頂上到着。西風を避けてしばらく休憩。青森湾や雪の少ない八甲田山も望める。

下山は、前回登った斜面を駆け下りる。

リフト脇からスキー下降のんびりゆっくり坂本ペースで下り 2 時間後嶽温泉神社到着

今年は、雪解けが早かったようです。

桜は、私たちがキャンプしている間に散ってしまいました。

その分リンゴの花が満開です。 記 坂本

⑤2 2022 5 月 4 日 姥ヶ岳 晴れ

┌ 大竹 深野 丸山 阿部 他 1

大竹、丸山、阿部。それに娘婿さん、深野の 5 人で志津へ。

姥ヶ岳へ登る途中のいつもの駐車スペースに路駐。

今日も晴れて天気は上々！

いつ来ても素晴らしいブナの森をゆっくり歩きだす。

登りは足が揃って心平安、大竹さんも娘婿を気遣っ

ていつもより休みを入れてくれます。

姥沢リフトはあまり人が混んでいなかった。

リフトから降り損なって危ない若者を見た。

我々は姥山頂へゆっくり登った。

新雪が降ったらしく月山方面は白さを取り戻していた。

降りはいつもの通り飛ばす大竹さんを追いかけながらあたふたと。

途中クレバスを避けながら再びブナ森へ！

快調！と言いたいけれど、滑走面にあぶらが！

いうことをきかぬスキーを騙し騙し、車に戻りました。

記 深野



### ⑤③ 5月3～6日 鳥海山 鏡 後藤 他7名

鳥海山おっさんキャンプ&山スキー、昨日無事帰ってきました。

昨日最終日は朝解散で、後藤くんとブルーライン大平から  
笹ヶ岳に行ってきました。なんと荻野くんとお父さんに遭  
遇！それぞれ笹ヶ岳の東斜面を滑ってきました。

写真は荻野父子です。

鳥海報告の補足

5/4 は湯の台・宮様コースへ 車道下部は雪が途切れ途切れでだいぶ歩きました。

上部は風が強まり、滝の小屋の上部斜面までで引き返しました。下りでスキーのソールがタールだらけ  
になりました。 記 鏡



⑤4

5月15日(日) 山域：飯豊連峰 北股岳(石転び沢) メンバー：牧野, 田中(邦), 他1

形態：山スキー

ルート概要：4:30 倉手山登山口-6:00 温水平-8:00 門内沢出合い-11:00 梅花皮小屋 12:00-12:30 北股岳山頂-13:00 梅花皮小屋滑走-17:00 倉手山登山口(下山)

数年前の4月に高橋さん, 田中さんとトライした石転び沢。林道のデブリや夏道のトラバースに阻まれ敗退しており,

その後牧野は行く機会がなく, いつかはもう一度, と今回決行。

登山口となっている倉手山登山道の駐車場には, 4時に到着した時点ですでに十数台の車が停まっております。拍子抜け。

温水平までの林道はきれいに雪が解けており, 以前の苦労がうそのよう,,,

核心ともいえる, 砂防ダム奥の急斜面の夏道トラバースも, 今シーズン入った人たちの踏み跡がしっかりついており, スイスイ進むことができました。

トラバースを過ぎてスキーを履き, 順調に進む。女性2人は小屋手前の急斜面300mはアイゼンを履き, サクサク。田中さんはなんと小屋までシールで。

下界はくっきり見えているものの, 山頂付近はガスっており, 小屋で停滞がてら昼食。

そこに田中さんのお友達が数名偶然にも居合わせた。石転びルートはメジャーなエリアになっているようだ。

すっきり晴れないまま, 小屋から直下をスキー滑走。

上部からザラメでエッジもよく決まり, 急斜面も気持ちよく滑ることができた。

出合いまでくると, 山頂もきれいに見えた。

あとは来た道をすたすた。

今シーズンはスキーをよく担いだシーズンであった。 記 牧野

⑤5

5月17-18日 山域：鳥海山（百宅コース）

メンバー：塚本、牧野

形態：山スキー

ルート概要：

1日目 14：00 手代林道（百宅側の林道）途中車デポー

17：00 大清水小屋着



2日目 6：00 大清水小屋発-13:00 七高山山頂-14：15 小屋着 15：00-17:30 車デポ地（下山）

百宅コース側の林道（手代林道）は、心してどこまで進めるか探り探りで出発。

途中除雪もされており、落石路肩の崩れなどあったが、荻野君情報の倒木も複数いれば人力でもなんとか動かせ、車を通すことができ、結構いけるか？と期待していたが、大清水の手前 6.6km 地点で、土砂崩れのため行き止まり。塚本カーは泥できれいにお化粧されていた。

土砂の行き止まり手前に、転回するスペースがあり、1～2台程度なら駐車可。

そこから、2kmは砂利道の林道歩き。3km手前地点から雪が出たりとけていたり、2km手前からはスキーを履いてほぼ歩ける感じであった。

途中、塚本さんの山菜目にふきのとうやイタドリの新芽などを採取。夕飯におかずが一品増えました。

大清水は、数年前に避難小屋（休憩所）の他、トイレや炊事場もしっかり整備されていて、快適な泊まりスペースとなっている。

小屋には薪ストーブも完備され、廃材を利用した燃料もたくさんあった。夜は薪ストーブで夕飯づくりと暖をとり、終始暖かい小屋ステイになった。

人があまり入っていないせいか、カメムシのたまり場にもなっていたが、敷布団も数枚あり。

また、小屋の脇から出ている湧き水はとてもおいしく、名前の由来に納得。



翌日は、朝から快晴無風，気温はそれほど上がりず

ほぼ夏道沿いに行く。所々ヤブを抜ける箇所もあったが，雪はつながっており，何より終始輝く七高山を眺めながら歩けるロケーションがすばらしい。

塚本さんは靴擦れやら体調がすぐれないやらの困難にも負けず，ゆっくりペースで山頂まで到達！そのガッツに感服です。

それまで我々だけのプライベート鳥海山かと思うくらい静かだったが，

山頂に着くと，碓氷方面からは平日にも関わらずわんさと多くの人が滑走準備をしていた。

碓氷方面もまだまだ雪が多そうだ。

さすがに百宅コースからの入山者は我々だけだったが，唐獅子平まで滑って登り返す人もちらほら。

山頂からは，ほぼノンストップで1400mを滑って大清水小屋まで。

上部は新雪が付いており，気持ちいいザラメ，唐獅子平から下は縦溝が出てきたが，なんとかターンを決められるほど。

その後は，林道を2kmほどスキーで滑り，またスキーを担いで的林道歩き。

滑るだけなら，碓氷からの方が効率的ではあるが，この時期の静かな鳥海山を堪能でき，小屋泊の充実した山行ができたのも塚本さんの提案のおかげです。



最後に・今シーズンの定点観測



2  
2  
1・1  
1・2  
2 0  
2・0  
1・2



0  
7  
2  
9

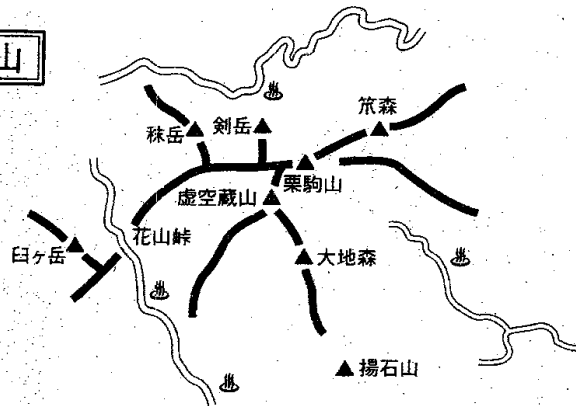
2022・03・35



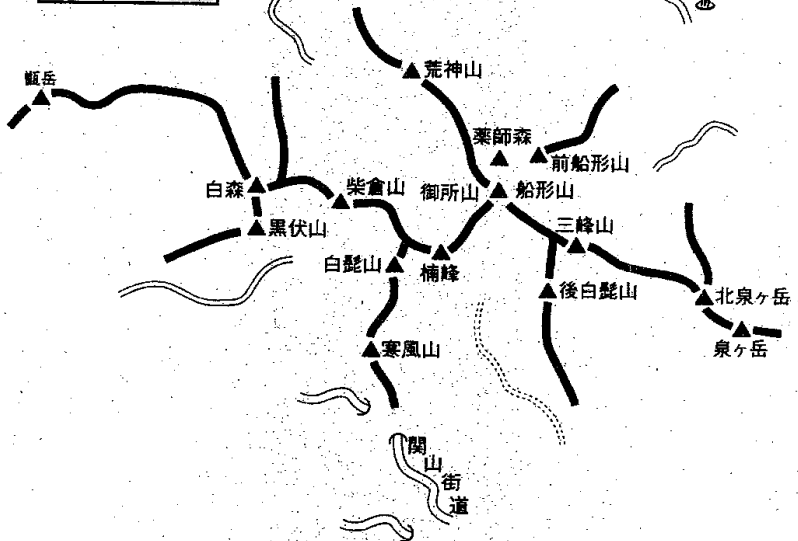
2



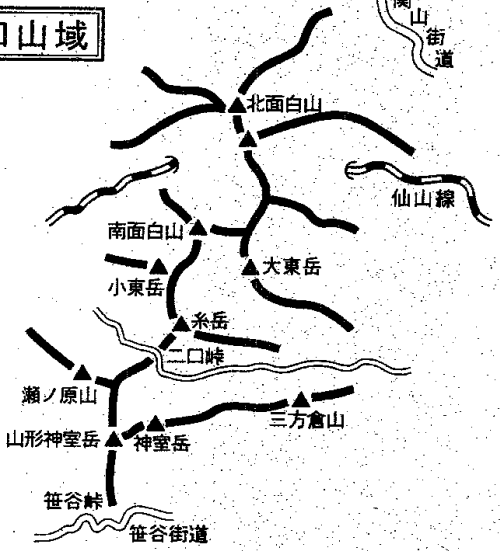
**栗駒山**



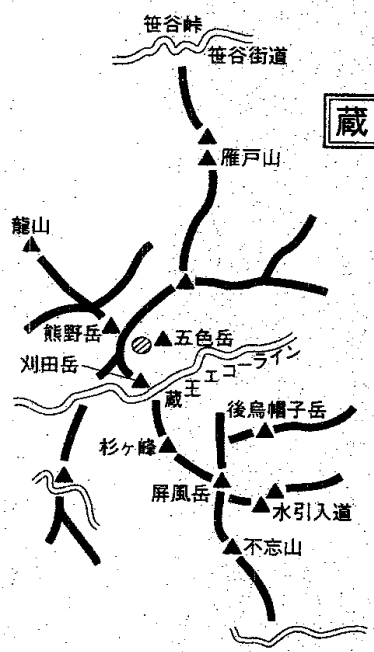
**船形連峰**



**二口山域**



**蔵王連**



深野会長 著書「産土の山を行く」より転載

